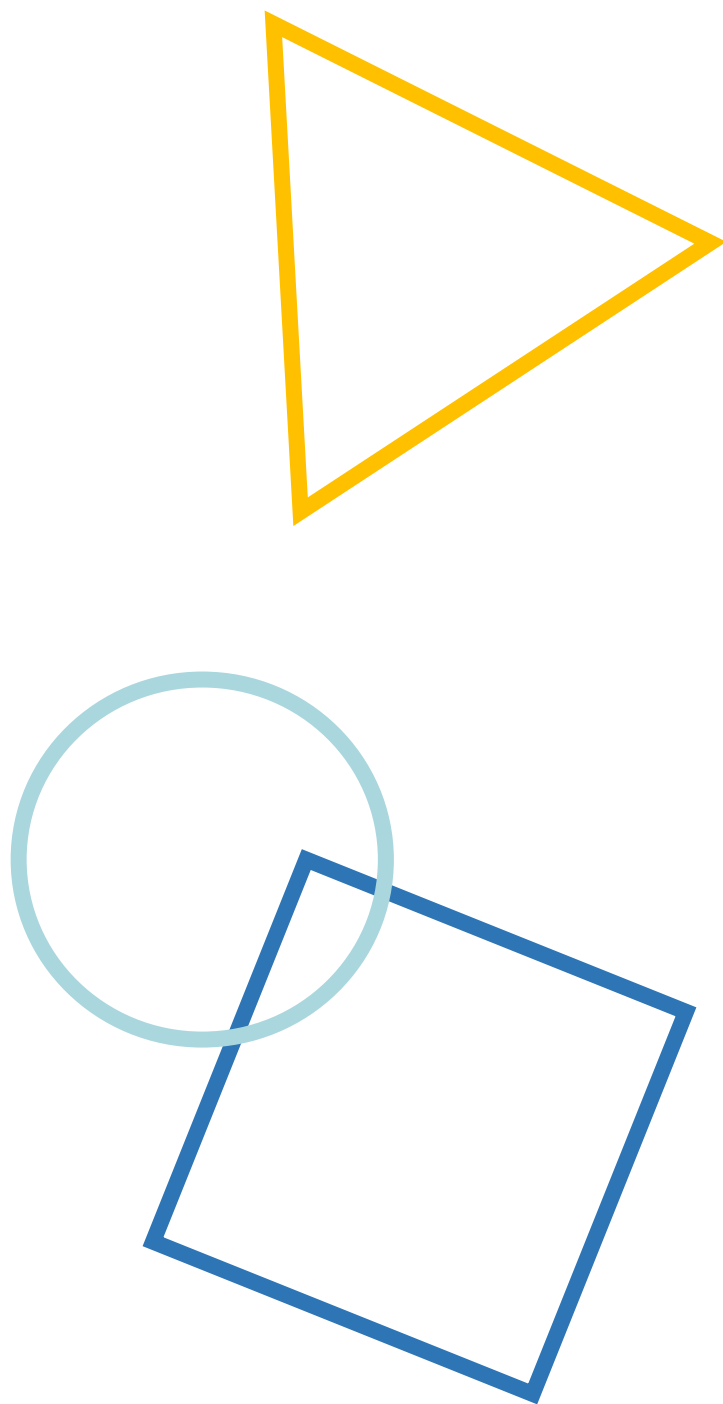


2024

活動報告書

GENDER SUPPORT TEAM



ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム

2024年度 活動報告書

ACTIVITY REPORT

2025年10月発行

Contents

筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針	p2
局長からのメッセージ	p4
GENDER STAFF	p6
STUDENTS STAFF	p7

取組紹介

① 授業・セミナー・FD実績	p8
② LGBTQ+に関する取組	p13
③ 理系女子のコミュニティプロジェクト	p17
④ つくば市・筑波大学共同事業	p23
⑤ BHEキャリア支援企画	p24
⑥ ピアスタッフ企画	p25
⑦ TIDE 異業種交流会	p29
⑧ LGBTQ+への対応	p33
⑨ work with Pride 受賞	p37
⑩ ダイバーシティ・マネジメント・サミット	p38
⑪ 国際女性デー企画	p40
⑫ ジェンダー支援チームサポート事業	p42

筑波大学ダイバーシティ推進 基本理念・基本方針

筑波大学は、性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず人間の可能性と多様性を尊重し、ダイバーシティ文化の醸成に努めるとともに、すべての構成員が働くことに誇りと喜びを実感できる大学を作り上げるため、以下の理念のもとに、男女共同参画社会及びダイバーシティ社会の形成に積極的に寄与する。

01 基本理念

- (1) 性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず、すべての人の人権の尊重、個人の尊厳の確立
- (2) 性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわりなく個人としての個性と能力発揮の機会の確保
- (3) あらゆる分野における諸施策の企画・立案及び決定において、性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわりない対等な参画の推進
- (4) ダイバーシティ社会の実現に向けた国際協力の推進

02 基本方針

1 ダイバーシティ推進活動

すべての構成員が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に資するための行動

- (1) 性別、国籍、年齢及び障害の有無にかかわらず、すべての構成員の教育、研究及び就業に関する機会均等の確保及び差別の解消
- (2) すべての構成員へのダイバーシティ推進に関する教育及び啓発活動並びに意識改革の推進
- (3) 地域社会及び国際社会との連携を通じたダイバーシティ推進活動の戦略的展開

2 障害学生支援

意欲と能力のあるすべての障害のある学生が障害を理由に修学を断念することがないよう、修学機会を確保するための行動

- (1) 障害のある学生の修学におけるニーズに応じた適切な合理的配慮の提供
- (2) 障害学生支援に関する組織的な研究、教職員に対する教育及び啓発活動並びに意識改革の推進
- (3) 障害のある学生も含む共生キャンパスの実現
- (4) 障害のある学生の適切なキャリア支援及び就職支援

3 学生等のキャリア支援

すべての学生並びにポスドクのキャリア形成支援及び就職支援のための行動

- (1) 学生及びポスドク人材のキャリア形成支援プログラムの構築及び提供
- (2) 学生自身のキャリア発達の視点に立ったキャリア形成支援及び就職支援の確立
- (3) ダイバーシティの視点に立った多様な就職支援の推進

4 LGBT等支援

「筑波大学におけるLGBT等の性自認及び性的指向を理由とした差別の禁止及び解消に関する基本理念」を踏まえ、すべての構成員がLGBT等の少数者を差別せず、それら少数者の性自認及び性的指向に対する自己決定を尊重するとともに、修学やサービスの妨げを取り除くための行動

- (1) LGBT等当事者及び関係者への相談体制の確立
- (2) LGBT等当事者の教育、研究及び就業における合理的な配慮の提供
- (3) すべての構成員へのLGBT等に関する教育及び啓発活動並びに意識改革の推進
- (4) LGBT等当事者（学生）への適切なキャリア支援及び就職支援

ヒューマンエンパワーメント推進局

Bureau of Human Empowerment



Bureau of Human Empowerment

ひとりひとりが、みんなのチカラに

ヒューマンエンパワーメント推進局 (BHE) は、学生と教員のひとりひとりがお互いを尊重し、それぞれの能力を最大限に発揮できる大学を目指して、2023年1月に設立されました。

基本理念

本学に関わるすべての人の権利、可能性、多様性を尊重し、
個々の能力が最大限に発揮される環境を整えます。
また、この活動を通して、大学におけるエンパワーメントの文化を醸成します。

行動指針

学内外の組織と信頼関係を構築し、人の多様性と包摂 (ダイバーシティ・インクルージョン) に基づく環境と
価値創造の好循環の実現を目指して、次の行動指針を定めます。

- 構成員がキャリアに応じて多様な個々の能力を最大限に発揮するための人材育成の支援
- 各組織および個人の目標・目的に応じて構成員を活かす公正・公平な環境構築の支援
- 構成員が多様な他者を適切に理解・対応するための啓発活動
- 人の可能性と多様性を尊重し、心身ともにエンパワーメントを推進する大学文化の醸成
- 地域社会及び国際社会との連携・協力による多様性が包摂された社会に向けた活動

それぞれが重なりを持ちながら、
いずれ大きな円として境目がなくなるような社会を目指します。



BHEが大切にしているキーワード

※エンパワーメント

ひとりひとりが持っている
力を発揮し、自発的に行動
できるようにする

※グローバル人材

出身国や地域の文化・伝統
をよく理解しながらもそれに
縛られず、グローバル社会
の多様な文化や価値観を
尊重し、新たな価値創造が
できる人材。留学生や外国
籍教職員が多い筑波大学
だからこそできる人材育成

※インクルージョン

チームを構成するメンバー
それぞれの違いを活かす選
抜。メンバーひとりひとりが
尊重されていると感じ、実
際に尊重される環境 (心理
的安全性) を実現することが
重要

※インクルーシブ・

リーダーシップ
個々の特性を尊重しながら、
新たな価値を仲間と創
造するリーダーシップ

※ダイバーシティ

性別やセクシュアリティ、肌
の色や国籍の違い、障害
など多様な属性の人々で
構成された組織やチーム。
筑波大学では、特定のマイ
ノリティだけではなく、思考
や価値観など、あらゆる違
いを対象とする

※エクイティ

個人差を考慮し、それぞれの
違いに応じて権利や機
会を公正に与えられる環境を
つくるという考え方



私たちのエンパワーメント宣言

私たちがより生き生きと学ぶことのできる大学生活を目指して、
ともに対話を重ね、前向きに行動できる環境づくりをしよう



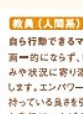
教員 (保健系)

数少ないとはいえ、
数少ない保健系の中へ
自分の心の持ちようで、壁を高くする
ことも低くすることもできます。お互い
を理解し、相手を尊重する大学文化
をつつていきたい。それが、ダイバー
シティやインクルーシブを築めること
につながると思います。



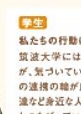
教員 (体育系)

エンパワーメントできる環境づくり
誰もがマイノリティになる可能性を持っ
ているからこそ、誰でも備えを共有する機
会や場所が必要。大学は年代も職業
も国籍も様々な人がいて、多くの経験や
知識が蓄積するところ。たまたまの人の知
恵と力を結集しながら、ひとりひとりをエン
パワーメントできる環境を整えています。



教員 (人文学系)

自ら行動できるマインドを育てる
画一的にならず、ひとりひとりの個
みや状況に寄り添った支援を目指
します。エンパワーメントは自分が
持っている力を引き出し、大きな
自信につなげるためのもの。
自力で立ち上がり、自分らしく輝
けるようサポートしていきたいです。



学生

私たちの行動は未来へとつながっていく
筑波大学には視野が広がる環境がありま
すが、気づいていない方がたくさんいます。BHE
の連携の輪が広がれば、先生や教員の方、友
達など身近な人へ相談でき、解決できる道筋へ
とつながっていくと嬉しかったです。私たちが行動す
ることで、より良い未来へつながると思います。



今後のアクションプラン

- 若手研究者の未来開発支援
- ダイバーシティ・マネジメント人材育成プログラムの開発
- 女性やマイノリティのさらなる活躍支援
- アントレプレナーシップ教育
- 学生と教員の多様な能力アセスメントとキャリア開発
- 障害のある職員への合理的配慮推進
- 外国籍およびグローバル人材の活躍支援等



ダイバーシティ推進を共に

本報告書には、2024（令和6）年度の、ヒューマンエンパワーメント推進局のジェンダー支援チームが取り組んだ、ダイバーシティに関する数々の活動実績を記してあります。

ふりかえれば、本学のダイバーシティ推進への取組は、1997（平成9）年の女性教員有志による「筑波大学女性教官懇話会」から始まりました。その後、2008（平成20）年の「男女共同参画室」の設置や、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の実施（平成25年から継続）、2015（平成27）年の、全国の大学に先駆けて、「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア」に関わるさまざまなミッションを一部署で引受ける「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」（通称、DACセンター）の新設がありました。また、2016（平成28）年の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択により、大学（本学）・企業・研究機関の3者が連携し、「3つの土台」と「3つの柱」、すなわち、前者は研究支援・意識啓発・研究力向上、後者は、次世代キャリア支援・上位層育成・研究活動再開支援による、女性研究者・技術者の活躍の加速化に努めました。また、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現（TIDE：Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment）」への取組や、2017（平成29）年の「LGBT等に関する基本理念及び対応ガイドライン」の制定、「work with Pride 2024」における7回目の「Gold」受賞など、さまざまな活動において成果をあげると共に、高い評価をいただけてまいりました。

そして、2023（令和5）年1月、これらの先進的な取組をリードしてきたDACセンターは、「ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE：Bureau of Human Empowerment）」に改組されました。ここでいうところの「エンパワーメント」とは、「対象とする人に、～ができるようにする」という意味を基に、「本学のすべての構成員が本来もっている能力を発揮して、主体的に行動できるようにすること」を大切な理念としており、BHEは皆様にとっての「伴走者」という位置付けになります。

新設されたBHEは、一昨年まで、DACセンターが担ってきた「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア」の3部門の業務を継承すると共に、「ジェンダー（ダイバーシティを含む）」「アクセシビリティ」「キャリア」の3つの支援チームが、お互いに連携しながら、従来の「マイノリティ支援」を土台に据えつつ、「本学のすべての構成員の主体的行動の支援」を推進してまいりました。

2年目を迎えたBHEは、今後も本学のすべての構成員の皆様と共に、社会課題である「ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンの実現」に努めてまいりますので、皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（2024年 太田圭）



ヒューマンエンパワーメント推進局
局長

太田圭

GENDER STAFF

山口 香 ヤマグチ カオリ

体育系 教授/
ヒューマンエンパワーメント推進局
次長（ダイバーシティ）

河野 禎之 カワノ ヨシユキ

人間系 助教/
ヒューマンエンパワーメント推進局
業務推進マネージャー

土井 裕人 ドイ ヒロト

人文社会系 助教

郭 立夫 グオリフ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム 助教

樋熊 亜衣 ヒグマアイ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム
ディレクター

小倉 悠香 オグラ ユカ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム
コーディネーター

高橋 純子 タカハシ ジュンコ

ヒューマンエンパワーメント推進局
主任

石井 万里子 イシイ マリコ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム
一般係員

関 雪葉 セキ ユキハ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム
一般係員

豊富 瑞歩 トヨトミ ミズホ

ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム
事務補佐員

STUDENTS STAFF

ピアスタッフとして、学生がジェンダー支援チーム主催のイベント等で運営に携わってくれています。

ピアスタッフ

ヒューマンエンパワーメント推進局ジェンダー支援チームでは、ジェンダー・セクシュアリティに関心のある学生をスタッフとして雇用し、企画の立案・運営等を学生主体で実施するピアスタッフ制度を設けています。企画立案、運営、イベントサポートなど、幅広く活動に携わってくれる学生メンバーと一緒に、DE&Iを推進しています。

活動概要

ピアスタッフには、定期的に活動し企画の立案や運営を担当する「コアスタッフ」と、希望の企画にスタッフとして参加する「スポットスタッフ」があります。今年度は、学外イベント（東京レインボープライド）への出展や、新たな取組としてセーフスペース（KiteKite）の開設など、学生スタッフの視点を取り入れ、教職員と学生との協働に重点を置いたさまざまな活動を行いました。

誰もが「自分らしく生きる」ための支援を一緒に考えていきませんか？

ピ	ア	ス	タ
学	生	募	集

ピアスタッフとして、ぜひあなたのアイデアを活かしてください！

企画例や詳細は
裏面をご覧ください！

イベントを
企画してみたい

LGBTQ+に
関心がある

生き辛さを抱える人を
手助けしたい

今の社会に
生き辛を感じる



“ピアスタッフ”って、
どんなことができるの？

企画の立案

自分のやってみたかった
企画を実現することができる

「こんなことがしてみたいけど、
1人で実現するには難しそう…」

そんな想いを、ぜひ一緒に形にし
てみませんか？
自分のやってみたかった企画を
形にできるチャンス！

企画に携われる

興味のある企画に
“単発で”携わることもできる

「企画運営に関わってみたくて、自
分で立案するのは勇気があるな…」

具体的な企画案はないけど、企画
成功の手助けをしたいという方は、
興味のあるイベントに単発で携
わっていただけます。

例えばこんな企画ができるかも

- 男性に向けたメイク講座
- ドラマ撮影等の作品作り
- ユニバーサルファッションショー 等々



募集要項

対象者：筑波大学に所属する学群生・院生の方

※学群や所属、年齢、性別問わず、どなたでもご参加いただけます。

時給一律
920 円

参加してみたい・活動についてもっと知りたい

2月中旬頃、説明会を実施予定

ご興味のある方は、
右のフォームからぜひご登録ください。

- ① ご登録の方へ2月中旬頃に行う説明会のお知らせを配信
- ② 説明会へのご参加後、スタッフ登録を希望される方は本登録

お申込フォーム



お問合せ先

筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局
ジェンダー支援チーム

029-853-8504
diversity@un.tsukuba.ac.jp

取組紹介

2024-2025

Topics

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ① 授業・セミナー・FD実績 | ⑦ TIDE 異業種交流会 |
| ② LGBTQ+に関する取組 | ⑧ LGBTQ+への対応 |
| ③ 理系女子のコミュニティプロジェクト | ⑨ work with Pride 受賞 |
| ④ つくば市・筑波大学共同事業 | ⑩ ダイバーシティ・マネジメント・サミット |
| ⑤ BHEキャリア支援企画 | ⑪ 国際女性デー企画 |
| ⑥ ピアスタッフ企画 | ⑫ ジェンダー支援チームサポート |

1

授業・セミナー・FD実績

2024年4月8日（月）～30日（火）令和6年度全学FD/SD研修会 「SOGI/LGBTQ+に関する基礎知識」

オンデマンド形式で令和6年度 全学FD/SD研修会「SOGI/LGBTQ+に関する基礎知識」を実施しました。この研修は、特に学生対応や総務を担当する教職員の皆さまを対象に、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）やLGBTQ+に関する基本的な知識を学ぶ機会として企画されたものです。多様性への理解を深めるきっかけとして、多くの方にご視聴いただきました。

概要

日時：2024年4月8日（月）～30日（火）

方法：Microsoft Stream（学内を範囲とした講義動画の配信）

対象：筑波大学の教職員

内容：

- （１）「DE&Iとは？」梅田恵（ヒューマンエンパワーメント推進局 教授）
- （２）「性の多様性やLGBTQ+の基礎知識」河野禎之（人間系 助教）
- （３）「LGBTプライドの成り立ちと歴史」保井啓志（人間文化研究機構／同志社大学）

視聴数：延168回再生

参加者からの声

- 歴史的背景や用語説明が分かりやすく印象に残りました。
- 悪意のない発言が相手を傷つけていないか、自分自身の言動に意識をもって気を付けていきたいと感じました。

2024年7月10日（水）プライドマンスセミナー 「トランス排除からインターセクショナリティを考える」

近年、日本ではトランスジェンダー、特にトランス女性の権利が、女性の権利と対立するものとして語られる場面が増えてきています。今回のイベントでは、「トランス排除」というテーマをもとに、講義と参加者とのディスカッションを通じて、「フェミニズムは誰のためのものなのか」について、さまざまな視点から考える機会を持ちました。多様な立場や経験に触れながら、参加者それぞれが自分の考えを深める時間となりました。

イベント終了後に実施したアンケート調査によれば、参加者は学群生10名、大学院生1名、教職員等1名で構成されており、所属は知識情報・図書館学類や社会学類など、幅広い分野の方が肩にご参加いただきました。またイベント終了後には、セミナーを通じてインターセクショナリティやトランス女性とフェミニズムの関係についての理解が深まり、従来の誤解が解消されたとする声が多く寄せられました。特に、日本における差別構造の複雑性や、フェミニズム運動内における意見の分裂に関する考察が印象に残ったとの意見もあり、参加者が社会的課題を多面的に捉える契機となったことがうかがえます。

概要

日時：2024年7月10日（水） 11:30~12:10

方法：スチューデント・コモンズ

対象：筑波大学に所属する学生

講師：郭立夫氏

（筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局助教）

内容：講義、グループワーク

参加者数：13名

プライドマンスセミナー

トランス排除から インターセクショナリティを考える

近年、日本ではトランスジェンダー、特にトランス女性の権利が女性の権利と対立するものとして捉えられる出来事が増えています。

今回のセミナーでは、トランス排除をテーマに、フェミニズムは誰のためのものなのかを考えます。

2024年7月10日
11:30~12:10

詳細・申込



場所：スチューデント・コモンズ

対象：筑波大学に所属する学生

講師：郭立夫 助教
（ヒューマンエンパワーメント推進局）

主催：ヒューマンエンパワーメント推進局（BHE）

2024年10月22日（火）介護セミナー

「在宅医療と在宅介護～住み慣れた家で人生の最後まで～」

筑波大学の教職員および学生を対象に、つくば市役所による出前講座「在宅医療と在宅介護～住み慣れた家で人生の最後まで～」をオンライン形式で開催しました。

本講座は、人生の最終段階における医療や介護の選択肢について理解を深めることを目的として企画されたもので、地域と大学が連携して学びの場を提供する取り組みの一環です。

講義では、在宅医療でどのような支援が受けられるのか、介護保険制度の仕組みやサービスの種類、利用方法について、つくば市役所の担当者より丁寧な説明がありました。

また、医療・介護に関する相談窓口の紹介に加え、仕事と介護を両立するために活用できる制度や、家族の介護に直面した際に役立つ地域の支援体制についても、わかりやすく解説されました。

参加者からは、「制度の全体像がよく理解できた」「将来に備えて考えるきっかけになった」といった声が寄せられ、日常生活に関わるテーマへの関心の高さがうかがえました。

当日は33名の方にご参加いただき、世代や立場を問わず、多くの方にとって有意義な学びの機会となりました。

概要

日時：2024年10月22日（火）15:00～16:10

方法：オンライン（Zoom）※後日見逃し配信

対象：筑波大学に所属する教職員・学生

講師：つくば市福祉部地域包括支援課職員

参加者数：33名



介護セミナー

「在宅医療と在宅介護

～住み慣れた家で人生の最後まで～」

10/22 TUE. 15:00 ~ 16:10

1

授業・セミナー・FD実績

2025年1月31日（金）育休セミナー

「育休取得とその先へ～男性教職員の育休取得と復帰の経験談」

「育休取得とその先へ～男性教職員の育休取得と復帰の経験談」と題した育休セミナーを、筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局・人事課・組織職員課と共同開催しました。本セミナーは、男性教職員による育児休業の取得とその後の職場復帰に関する実体験を共有することで、育休制度への理解を深め、職場環境の改善や支援体制の充実につなげることを目的としています。

当日は、実際に育休を取得された男性教職員3名にご登壇いただき、育休取得のきっかけや休業中の生活の様子、復帰後に直面した課題とその乗り越え方などについて、具体的かつ率直にお話しいただきました。参加者からは、「実際の経験談が参考になった」「育休取得への不安が軽減された」といった声が寄せられ、育休に対する理解と関心を高める有意義な機会となりました。

イベント終了後に実施したアンケートによれば、「満足」「とても満足」と回答した方が88%を占め、セミナーの内容に対する高い評価が得られました。特に、育休制度の理解促進に加え、職場環境の改善の必要性が再認識され、今後の情報共有や支援体制の強化への期待が高まる結果となりました。

概要

日時：2025年1月31日（金）

会場：筑波大学 本部アネックス棟

対象：筑波大学に所属する教職員

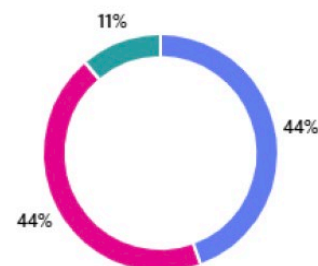
内容：育休を取得した男性教員と職員の対談など

参加者数：14名



【満足度】

とても有意義だった	4
有意義だった	4
どちらともいえない	1
有意義ではなかった	0
まったく有意義ではなかった	0



育休取得とその先へ： 男性職員の育休取得と復帰の経験談

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局

1

授業・セミナー・FD実績

2025年2月8日（土）～9日（日）大学院共通科目 「ダイバーシティとSOGI／LGBT+」

2025年2月8日・9日の2日間にわたり、大学院共通科目「ダイバーシティとSOGI／LGBT+」の集中講義を開講しました。本講義では、ジェンダーや性の多様性に関する基礎的な知識から、国内外の社会的動向、法制度、企業の取り組みまで、幅広い視点から学びを深める機会を提供しました。

初日の2月8日には、郭立夫助教による講義が行われ、ジェンダーに関する基本的な概念、性の多様性、そして近年グローバルに広がる反ジェンダー運動について解説がありました。続いて、河野禎之助教および土井裕人助教を交えたパネルディスカッションが実施され、教育現場や研究の視点からの意見交換が行われました。

2日目の2月9日には、ゲストスピーカーとして弁護士の寺原真希子氏をお迎えし、日本における同性婚の法制化に関する講義が行われました。さらに、EY Japanの梅田恵氏より、企業におけるDE&I（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）の推進に関する実践的な取り組みについてご紹介いただきました。

本授業には100名近い履修者が参加し、講義中には活発なディスカッションが行われました。提出されたリアクションペーパーからは、「ダイバーシティについて深く理解することができた」「これから自分と異なる人を尊重したいと思った」といった声が多く寄せられ、受講者の意識の変化や学びの深まりがうかがえました。

両日を通じて、理論と実践の両面から多様性に関する理解を深める内容となり、受講者にとって非常に有意義な学びの場となりました。

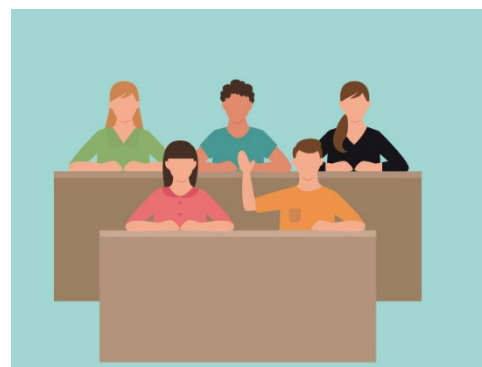
概要

日時：2025年2月8日（土）2月9日（日）

方法：オンライン（Zoom）

対象：筑波大学に所属する学生

受講者：94名



2

LGBTQ+に関する取組

2024年4月20日（土）～21日（日）

東京レインボープライド2024

2024年4月19日から21日にかけて、東京都代々木公園で開催された「東京レインボープライド2024（TRP2024）」のプライドフェスティバルに、私たちのチームもブースを出展しました。

今回の出展では、学生ピアスタッフ3名を中心に、教職員と学生あわせて27名のボランティアが協力し、3つの企画を実施しました。ブースには3日間でのべ500名以上の方々にお立ち寄りいただき、たくさんの出会いや対話が生まれました。

企画では、来場者の方々が気軽に参加できるような工夫を凝らし、LGBTQ+に関する理解を深めるきっかけづくりを目指しました。学生スタッフが主体となって進行したことで、若い世代の視点や感性が活かされた、あたたかみのある空間となりました。

参加者の皆さまからは、「学生さんの取り組みに感動した」「話しやすい雰囲気ですぐ安心して参加できた」といった声も寄せられ、私たちにとっても大きな励みとなりました。今後も、こうした場を通じて、多様性を尊重し合える社会づくりに貢献していけるよう、活動を続けてまいります。

企画1：IMAGINE OUR FUTURE

来場者が協力して1つの作品を作る共同制作。筑波が科学都市であること、また未来へ向かうイメージから宇宙とロケットをモチーフとして描いた絵に、来場者の「私が願う未来（MY FUTURE）」を集めて「皆が願う未来（OUR FUTURE）」を作りました。



企画2：Colour your body

来場者に「好きな色」と「描いてほしいモチーフ」を選んでいただき、腕や手にペイントを施すボディペイント企画を実施しました。学生スタッフが丁寧にペイントを行い、楽しく温かなひとときとなりました。



企画3：Tsukuba OUR Contents

BHEの活動紹介や、BHEの教職員・学生スタッフから募集したフェミニズム・クィア関連の学術書籍や「LGBTQ+」に関する映像・小説などのおすすめ作品を紹介する企画。来場者にもおすすめ作品をカードに記入いただき、それらを集めて一冊の冊子にしました。

2

LGBTQ+に関する取組

2024年6月3日（月）～21日（金）プライドマンス企画 PRIDE at Tsukuba～ぷちライブラリー～

2024年6月3日（月）～21日（金）に筑波大学附属中央図書館2F ギャラリーゾーンにて、学生ピアスタッフ企画『PRIDE at Tsukuba～ぷちライブラリー～』を開催しました。

6月はプライドマンスということで、「性（ジェンダー・セクシュアリティ）」に関する教職員・学生の推薦書籍や、4月に出展した東京レインボープライド2024の写真・制作物等の常設展示を行いました。書籍展示では、テーマを「性と帝国」として、フェミニズムやクィア理論、帝国主義やポストコロニアリズムが交差する書籍を紹介しました。来場者の方におすすめの作品を記入してもらうコーナーも作り、多くの作品を推薦いただきました。



おすすめ図書の推薦文

ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱ジュディス・バトラー

1990年に出版されたジュディス・バトラーのジェンダー・トラブルは、フェミニズム・クィア理論を語る上で欠かせません。フェミニズムの中における「男／女の差異は存在するか」という本質主義／構築主義論争に対し、「セックス（生物学的性差）は常にすでにジェンダー（社会的構築物）である」と主張し、構築される以前の存在としての性差を想定することが既に誤りであると主張しました。ジェンダーとは、人々に理想的な女性性・男性性を模倣するよう求める規範であり、その際限のない人々の模倣により、そもそも存在しないはずの男女の二元的なカテゴリーの起源を、さかのぼって作り出してしまうものだとし、ジェンダーのパフォーマティビティと呼びました。その中で、ゲイ・コミュニティの「ドラッグ」という行為は、その模倣の虚構性をパロディ化するものと述べました。

トランスジェンダー問題 議論は正義のためにイヴ・K・セジウィック

ダイバーシティやインクルージョンは福祉や社会貢献の話ではない。正義のための議論なのだ。なぜ今、同性婚訴訟が日本で起きているのかということと併せて考えてほしい本。



プライドマンス 推薦書籍フェア Recommended Books

中央図書館でお取り扱いのなかつた推薦図書のリストです。ぜひ、あわせてご覧ください。

クィアスタディーズをひらく3 健康／病、障害、身体 菊地 夏野、堀江 有里、 篠野 由里子	Feminist Queer, Crip Alison Kafer	Twilight of Equality Lisa Duggan	Terrorist Assemblages Jasbir K. Puar
Queer Necropolitics Jin Haritaworn, Adi Kuntzman, Silvia Posobco	Islam in Liberalism Joseph A. Massad	Unheroic Conduct The Rise of Heterosexuality and the Invention of the Jewish Man Daniel Boyarin	The Routledge Queer Studies Reader Donald Hall
No Future Lee Edelman	レスビアンである 〈わたしたちのストーリー〉 飯野 由里子	クィアする現代日本文学 クァ・動物・語り 武内 佳代	クィア・シネマ・スタディーズ 菅野 佳吉、河川 和也、 長崎 佐智子 他
LGBT初級講座 まずは、クィの友だちをつくりなさい 松中 権	LGBTQの働き方をクィアする本 宮川 直己	子どもを育てられるなんて聞けなかつた LGBTQは「母親が母親になること」から 杉山 文野、松岡 宗嗣、 山下 知子	祝賀 温 又柔
キッチン 吉本 ばなな	トランスジェンダーの心理学 多様な性別同一性の発達メカニズムと形成 佐々木 孝子	LGBTQ+の 児童・生徒・学生への支援 教師現場をセーフティゾーンにするために 飯西 真記子	はじめよう！ SOGIハラのない学校・職場づくり 「なくそう」SOGIハラ実行委員会
LGBTとハラスメント 神谷 悠一、松岡 宗嗣	性別違和・性別不適合 性別同一性障害から何が変わったか 針間 克己	医療者のためのLGBTQ講座 吉田 絵理子、針間 克己、 並久保 祐介 他	LGBTを読みとく クィ・スタディーズ入門 森山 至貴
LGBTQ運動の歴史 マシュー・トッド	筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局 ジェンダー支援チーム(GST) ☎ 029-853-8504 ✉ diversity@un.tsukuba.ac.jp		

クィ・スタディーズをひらく1
アイデンティティ・コミュニケーション
菊地 夏野、堀江 有里、
篠野 由里子 他

トランスジェンダー問題
議論は正義のために
ジョーン・フエイ

同性愛と異性愛
風間 孝、河川 和也

性の歴史1
知への意志
ミシェル・フーコー、
篠田 守義

トランスジェンダーを生きて
語り合いから働く経験の「質感」
町田奈緒士

物語とトランス
クィ・フェミニズム批評の可能性
岩川 ありさ

最小の結婚
結婚をめぐる法と道徳
Elizabeth Brake

女装と日本人
三崎 順子

Pick Up 推薦文

青のフラッグ (漫画) / KAITO

高校性という様々な悩みを抱きやすい時期の子どもたちを描いた青春群像劇。
登場人物一人ひとりがそれぞれのジェンダーやセクシュアと向き合っていく姿に勇気づけられたり、共感
して苦しくなったり、読んでいる私たちが考えさせられたりします。
(学生スタッフ 中玲蘭)

MILK (映画)

アメリカで初めて、ゲイを公言しながらも公職に選ばれたハーヴェイ・ミルクの生涯を描いた作品。ミル
ク氏の活動家・政治家としての生き様と、激化するゲイムーブメントとバックラッシュの描写からは、日
本の現状についても考えさせられる点が多い。
(学生スタッフ 栗田彬良)

Not a boy, Not a girl (映画) / IMDB

オーストラリアのノンバイナリーの子どもたちを扱った45分間のドキュメンタリー。当事者の生活や自分のアイデンティ
ティへの気づきの過程について本人の言葉で知ることができる。当事者だけでなく、ノンバイナリーの子どもを持つ親や、
必要な医療行為を行う医療関係者にもインタビューを行い、日本ではあまり浸透していないノンバイナリーについて当
事者とそれをサポートする人の2つの視点から知ることができる。
(学生スタッフ 上岡恵美)

Feminist Queer, Crip / Alison Kafer

女性の解放を求めるフェミニズム、性の規範からの解放を求めるクィア、それから健全な身体を良しとする「能力主義
= ableism」からの解放を求めるクリップ・セオリー。隣接しながらも分断も検なわるそれぞれの分野を理論的に深掘
する読み。社会がある特定の身体や性のあり方を正常と見なし、マイノリティを差別する価値観を突き詰めるにはどうす
ればよいのか。この大きな問いを、抑圧の共通性と差異に注意しながら、「時間」と「空間」という点から考えた大著。
(ヒューマンエンパワーメント推進局 助教 保井啓希先生)

キッチン / 吉本 ばなな

書かれてから30年以上経つのに古びず、多くの国でも翻訳され愛されているのは、人が本質的に持つ淋し
さとそれゆえに求めたいやさしさやつながりのことが普遍的に描かれているからだと思う。生きていることの
不思議さ、あたたかさに触れる本です。
(ヒューマンエンパワーメント推進局 教授 堀田重先生)

医療者のためのLGBTQ講座 / 吉田 絵理子 (総編集)

医療従事者を対象とした内容ですが、LGBTQに関する基本知識、専門家の視点、教育、団体紹介などの幅
広い内容に加え、さらに学ぶための資料の紹介もされており、LGBTQについて網羅的に理解することがで
きます。
(医学医務系 小曾根早知子先生)

2

LGBTQ+に関する取組

2025年1月16日（木）～28日（火）

OUT IN JAPAN @ 筑波大学

筑波大学附属中央図書館2階ギャラリーゾーンにて、「OUT IN JAPAN @ 筑波大学 2025」を開催しました。本企画は、NPO法人グッド・エイジング・エールズと本学ジェンダー支援チームの共催により実施され、全国のセクシュアル・マイノリティ当事者のポートレート写真とメッセージを通じて、多様な「姿」と「思い」の可視化を図りました。

今年度は新たな取り組みとして、ピアスタッフによる展示企画「ALLY（アライ）の主張」コーナーを設置。支援者としての経験や思いを、個別のメッセージボードと写真で紹介し、多くの来場者から共感の声が寄せられました。

さらに、図書館に所蔵されているLGBTQ+関連書籍の特設展示・貸出も実施しました。約2週間の開催期間中、学生・教職員・地域住民など、幅広い層の方々にご来場いただきました。特に「ALLYの声」展示は、支援者の存在を可視化し、当事者理解を深めるきっかけとなりました。

これらの取り組みを通じて、学内におけるD&I（多様性と包摂）の文化醸成に大きく貢献することができました。今後も、誰もが安心して自分らしく過ごせる環境づくりを目指し、継続的な活動を展開してまいります。

Diversity Awareness Weeks
OUT IN JAPAN @ 筑波大学
Produced by ピアスタッフ

期間：
2025年1月16日（木）～1月28日（火）

場所：
筑波大学中央図書館 2F 入口 常設展示

認定NPO法人グッド・エイジング・エールズと共催
・プロジェクトを担当した写真家レスリー・キーが撮影した写真
・メッセージ
・書籍展示
・筑波大学BHEジェンダー支援の活動紹介(セーフスペースKitekite)

筑波大学では7回目の開催

様々なバックグラウンド、「ジェンダー」に関して研究したり、興味・関心を持つ4人のピアスタッフがALLY（アライ）として各々の思いを届けます。

※ALLY = 「味方」を意味する単語で、そこから転じて「性的マイノリティを理解・支援する人」を指します。

主催：筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局（ジェンダー支援チーム）
共催：認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ

問い合わせ先
筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局ジェンダー支援チーム
TEL: 029-853-8504
mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
Q: <https://diversity.tsukuba.ac.jp/>

BHE
good aging ears

クローゼットと異性愛規範

多くの場合、「性については公共の場で話題にすべきでない」という理由でカミングアウト行為を拒絶したり黙秘したりする言説が見られます。しかし、異性愛も実際には性の一形態であり、私たちの社会はさまざまな形で異性愛を表現し、語り続けています。たとえば、恋愛雑誌や結婚式、恋愛を題材とした文学や映画作品などです。同じ「性」の話題でも、異性愛は語られることが許され、さらには祝福される一方で、同性愛などの「規範外の性」はクローゼットに閉じ込められ、個人的な「秘密」として扱われます。

これはまさに異性愛規範の表れであり、クローゼットは異性愛規範を維持するための重要な認識や思考を制限するツールとして機能しています。異性愛が優位に立つ社会では、カミングアウトは大きなリスクを伴います。たとえば、自身の性的傾向や性自認を公表することで、職を失ったり、学校を退学させられたり、友人関係を断たれたり、さらには精神疾患を患ったりする可能性があります。

「ALLY（アライ）」とは
「ALLY（アライ）」とは、異性愛規範が支配する社会の中で、性的マイノリティを支援し、彼らの声を代弁するピアジェンダーや異性愛者指します。クローゼットは、非異性愛の性が「語られるべきではない」という認識や性的マイノリティ自身を台無しにする人々に与える影響、非異性愛の性の空間的区画の区画や議論や対立に与えることで異性愛規範を強化します。このような社会環境の中で、性的マイノリティがカミングアウトして自分の存在を宣言することは、さまざまなリスクを伴います。ALLYの存在は、このリスクを軽減し、「性的マイノリティの運動や活動には性的マイノリティだけが関わっている」という誤解を避ける助けとなります。

カミングアウトとは?

「カミングアウト」という言葉は、英語の「Coming out of the closet (クローゼットから出てくる)」から派生したもので、現代的な性的マイノリティ運動や文化において、自分の性的傾向や性自認を他者に公表する行為を指します。この短い表現に含まれる「Closet (クローゼット)」は、誰もが自分の秘密を隠しておく場所の象徴とされ、「知らずにはない秘密」と「知られてはいけない情報」の境界線を示します。

異性愛公開
同性愛
バイセクシュアル
などなど
「秘密」

異性愛はクローゼットの外側に置かれ、公然と語られ祝福されるべき「性」とされる一方で、同性愛を指める「規範外」の性はクローゼットの内部に隠され、公の場で簡単に語られるべきではない「秘密」とみなされています。「カミングアウト」とは、この認識の枠組みを振り、隠されるべきとされた性を公の場で示し、多様な性の存在を宣言する行為です。

2024年7月26日（金）女子中高生理系進路選択応援プログラムのぞき見science2024～大学で講義を受けてみませんか

筑波大学とつくば市の共催によるイベント「のぞき見science2024～大学で講義を受けてみませんか～」を開催いたしました。企業や研究機関、大学などで活躍されている女性研究者の方々を講師にお迎えし、筑波大学で「講義体験」を行いました。

午前・午後の部を合わせて、延べ124名の女子中学生・女子高校生の皆さんにご参加いただきました。講師としてご登壇いただいたのは、筑波大学医学医療系の齊藤夕貴先生、物質・材料研究機構の瀬川浩代先生、高エネルギー加速器研究機構の谷口七重先生、株式会社ファンケルの戸田珠代先生の4名です。

また、講義体験に加えて、筑波大学の学生と自由にお話しただける「ふらっとのぞき見サイエンカフェ」も常設し、大学生活や高校時代の過ごし方、受験勉強の方法や始めるタイミングなどについて、筑波大の先輩たちと情報交換をしていただきました。

参加者の皆さんからは、「研究職について詳しく、わかりやすく知ることができました」「将来のことが決まっていなくても、今夢中になっていることについて考えればいいと思えました」「さまざまな進路選択があることがわかりました」といった感想をいただきました。

概要

日時：2024年7月26日（金）

会場：筑波大学 1H201教室

対象：女子中学生、高校生、保護者

参加者数：延124名

参加者からの声

- 自分が興味のある内容の講義を聞くことができて良かった。モチベーションUPにつながった
- 理系もいろんな仕事や学部があるんだなあと筑波大のイメージが少しかわった。
- 理系のなかでも様々な分野の話が聞けて面白かったです。自分の興味の範囲が広がって、参考になりました。

のぞき見science2024
大学で講義を受けてみませんか

「理科の授業が好き!」「理系に進みたい!」「文系・理系で迷っている…」
そんな女子中高生のみならず必見!
女性研究者の方々に自身の研究について講義いただく体験イベントです。
講師は筑波大学や物質・材料研究機構など、大学・研究機関・企業からお招きいたします。詳細はHPをご覧ください。

2024.7.26 Fri
午前の部 10:15～11:30 (授業 9:45)
午後の部 13:30～14:45 (授業 13:00)
※ 講義は1時間程度の予定です。

筑波大学
筑波キャンパス内
※ 参加者のためにバスを貸出いたします。

女子中学生・高校生

イベントへのお申込・詳細は
左記QRコードからご確認ください。
7月15日(月) 申込締切

Time Table

午前の部
9:45 - 10:15 受付
10:15 - 10:30 開会
10:30 - 11:30 講義体験

午後の部
13:00 - 13:30 受付
13:30 - 14:30 講義体験
14:30 - 14:45 閉会

常設コーナー
11:00 - 15:30 ふらっとのぞき見カフェ

筑波大学
ヒューマンエンパワーメント推進局 ジェンダー支援チーム
お問合せ 受付時間 029-853-8504 / 029-853-2256
rikejo@un.tsukuba.ac.jp

Official HP X (twitter)

定員 150名

2024年7月26日（金）女子中高生理系進路選択応援プログラムのぞき見science2024～先輩リケジョの生き様にズームイン

筑波大学とつくば市の共催によるオンラインイベント「のぞき見science2024～先輩リケジョの生き様にズームイン～」を開催いたしました。

企業・研究機関・大学で活躍されている女性研究者の方々にご登壇いただき、ご自身の研究内容だけでなく、大学進学や就職活動でのご経験についてもお話しいただきました。女子中学生・女子高校生から72名の応募があり、当日は56名の方にご参加いただきました。講師としてご登壇いただいたのは、産業技術総合研究所の松岡萌さん、高エネルギー加速器研究機構の青木優美さん、筑波大学生命環境系の石川香さん、アサヒクオリティードイノベーションズ株式会社の岡田佐和子さん、富士通株式会社の宮原捺希さん、筑波大学産婦人科の天神林友梨さんの6名です。

また、イベントの企画・運営を担当した「つくりけCo-Lab」の筑波大生による「アフタートーク」も開催され、「アルバイトはどんなことをしていますか？」「毎日勉強していますか？」など、大学生活に関する素朴な疑問にざっくばらんにお答えいただきました。

このイベントを通して、科学の世界って面白そう！と思ってもらえたり、将来の進路について考えるきっかけになっていたら嬉しいです。

概要

日時：2024年12月14日（土）13：00～15：00

会場：オンライン（Zoom）

対象：女子中学生、高校生、保護者

参加者数：56名

参加者からの声

- 実際に研究者として活動していらっしゃる方々の研究内容からプライベートなお話まで何うことができました。
- 自分の知りたいことや講師の先生達の経歴が知れて良い機会となりました。また、この機会で自分の将来の方向性がある程度絞ることができました。
- さらに理系を志望しようという意志が強くなりました！みなさんのように将来活躍する研究者になれるように、今から勉強を頑張っていきます！



3

理系女子のコミュニティプロジェクト

2024年10月25日（金）理系女子コミュニティ「Co-Lab」企画 HALLOWEEN 院生女子会

筑波大学の学生チーム「つくりけCo-Lab」では、女子大学院生向けの学内イベント「女子会」を開催しました。

つくりけCo-Labは、筑波大学に在籍する女子大学生・大学院生が運営する大学公認団体で、BHEジェンダー支援チームのサポートのもと活動しています。女子中高生の理系進路選択を応援したり、学内の女子学生同士がつながれる場をつくったりと、次世代の女性研究者・技術者の育成を目指してさまざまな取り組みを行っています。

今回の「女子会」は、「女子学生が少ない分野にいと、同じ立場の人と話す機会が少ない」「大学院から筑波大学に来たけれど、横のつながりがなかなかできない」といった声を受けて、「女性の院生コミュニティをつくろう！」という学生スタッフのアイデアから生まれました。

当日は、大学院生だけでなく、大学院進学を考えている学類生の方も参加してくれました。「今こんな研究をしているよ」「就職するか博士課程に進むか迷っていて…」など、研究や進路の話から、日常のことまで、さまざまな話題で盛り上がり、和やかな雰囲気の中で交流が深まりました。これからも、同じ立場の仲間と出会い、支え合える場を大切にしながら、女性が安心して学び、研究できる環境づくりを進めていきます。

概要

日時：2024年10月25日（金）18時00分～20時00分

会場：筑波大学 スチューデント・コモンズ

対象：筑波大学に所属する女子大学院生（学生も可）

参加者数：8名



3

理系女子のコミュニティプロジェクト

2024年10月21日（月）アジア財団・株式会社steAm共催、筑波大学協力 「生成AIワークショップおよびネットワーキング」

2025年10月21日、筑波大学第3エリア3A棟304号室にて、理・工系女子大学生を対象としたキャリア支援企画「生成AIワークショップ&ネットワーキング」が開催されました。本企画は、非営利国際開発組織The Asia Foundation（アジア財団）が主催する「STEM ConnectHER」プログラムの一環として、株式会社steAm（代表：中島さち子）が企画・運営を担当しています。

また今回のワークショップは、筑波大学が会場提供・運営協力を担い、学内外の女子学生に向けて理工系分野でのキャリア形成支援を推進する重要な取り組みとして位置づけられています。生成AIをテーマに、ツールの紹介とハンズオン形式による実践を通じて、参加者がAI技術への理解を深め、グローバルキャリアに活かせるスキルを習得することを目的としています。ハイブリッド形式で開催され、遠方からのオンライン参加も可能でした。

併せて実施されたネットワーキング（交流会）では、キャリアに関する講話のほか、学生・教員・研究者・企業関係者が自由に交流できる時間が設けられ、分野を越えた対話の場として好評を得ました。

概要

日時：2024年10月21日（月）17時00分～20時00分

会場：筑波大学 3A棟304号室

対象：理・工・理工系（STEM分野）を専攻、または情報含め理・工系分野の企業や職種での就職活動を検討している女子（She/Her）学生・院生

参加者数：8名

理・工・理工系・情報系のSTEM業界女子大学生のための

生成AIワークショップ & ネットワーキング

10月21日（月）17:00-20:00
筑波大学 第3エリア 3A棟 304号室

参加費
無料

手話通訳
入り



3

理系女子のコミュニティプロジェクト

筑波大学生の Vlog

理系進学を考える女子中高生に向けて、筑波大学でのキャンパスライフ・研究ライフを分かりやすく伝えるために、筑波大学の女子学生がVlogを作成しています。

学生目線からの大学の様子をぜひ動画でご覧ください

概要

第1弾：スチューデントプラザまでの道のり

第2弾：【筑波大学】ある学生の一日の過ごし方【Vlog】【卒論】

第3弾：【インターンシップ】岡山に行ってきました【学会発表】

第4弾：【筑波大学】大学生の卒業論文インタビュー調査【Vlog】【公共図書館】



◀ 動画はすべてQRコードからご覧いただけます。





2024年度「つくばで輝く研究者」

つくば市と共同で実施している「つくばで輝く研究者」では、つくば市に縁のある女性研究者のもとを訪れ、取材した内容をホームページ等で紹介しています。

“研究者”をより身近に感じてもらい、将来の職業として意識してもらえるよう、研究職を志したきっかけや学生時代の話など幅広く伺い、研究者の人となりが垣間見える内容になっています。インタビューの内容は、筑波大学の学生が記事に起こし、イラストレーターの中林まどかさんがマンガを作成しています。

概要

第6回：鈴木 孝子（すずき たかこ）さん（農業・食品産業技術総合研究機構 理事、博士（薬学））

第7回：松岡 萌（まつおか もえ）さん（産業技術総合研究所地質調査総合センター 研究員、博士（理学））

第8回：青木 優美（あおき ゆうみ）さん

(高エネルギー加速器研究機構広報室 特別技術専門職、博士(理学)つくば科学教育マイスター)

第9回：トゴバタラ ガンチメゲさん（筑波大学医学医療系助教、博士（保健学））

第10回：石崎 紀子(いしざき のりこ)さん

(国立環境研究所気候変動適応センター（気候変動影響評価研究室） 主任研究員、博士（理学））



2024年度 博士のポートフォリオ大公開＋ロールモデル懇談会

ヒューマンエンパワーメント推進局ジェンダー支援チーム、アクセシビリティ支援チーム、キャリア支援チームの3チーム合同で、「博士のポートフォリオ大公開＋ロールモデル懇談会」を毎年で開催しました。それぞれのチームがもつ特性を活かし、講師の選定などを行っています。

博士のポートフォリオでは、博士号をもつ筑波大卒業生が「なぜ博士課程に進学したのか」「博士課程時代に悩んだこと」「博士人材の強み」などを教えてくれています。

また、ポートフォリオを書いてくれた研究者たちとの交流会を6回実施しました。大学院進学に悩む学生から現在博士課程に在籍している学生まで、多様な学生にご参加いただきました。

各回
講師

- 第1回：5/29 長山慎太郎氏（筑波大学）
- 第2回：6/25 山本修平氏（筑波大学）
- 第3回：7/31 新田千絵氏（筑波大学）
- 第4回：9/25 中野泰伺氏（藤女子大学）
- 第5回：11/25 小野響也氏（ジュピロ磐田）
- 第6回：1/29 渡邊奈穂美氏（コニカミノルタ株式会社）

参加者からの声

- 社会人経験のある博士学生の話はなかなか聞く機会がないため、大変為になりました。
- 挑戦すること！社会的な貢献を成すこと！楽しむこと！自分も頑張ろうと思えるメッセージをいただいた気がします。
- ライフイベントや業界ならではのご事情も伺うことができて勉強になりました。



2024年度 セーフアーススペース KiteKite（きてきて）

KiteKiteでは、月に約6回のペースで開室日を設けており、毎月1回程度は学生スタッフによる企画イベント（映画鑑賞会やアート作品づくりなど）も実施しています。

たとえば4月には、昼休みの時間帯に3回のセッションを開催し、新入生歓迎企画として、学内のLGBTQ+サークルの紹介や、東京レインボープライド（TRP）について語る会を行いました。TRPの回では、筑波大学が同イベントに出展する内容の紹介や、プライドパレードの歴史についての解説もあり、参加者は大学の対外的な取り組みやLGBTQ+の歴史に触れる貴重な機会となりました。

6月の開室日には、特定のテーマを設けず、参加者同士のスモールトークや読書会、ボードゲームなどを通じた交流を行いました。部屋にはジェンダー・セクシュアリティに関する書籍も用意されており、学生スタッフを交えて、レポート課題や授業の相談なども気軽にできる雰囲気づくりを心がけました。

2024年の活動を通じ、KiteKiteは筑波大学内におけるジェンダー多様性支援の象徴的な存在として定着してきました。利用者からは「安心して自分のことを話せる場所ができた」「同性の友人以外にも相談できる先輩や先生と知り合えた」など好意的な声が寄せられ、キャンパスコミュニティにおけるピアサポート文化の醸成という成果が見られました。

概要

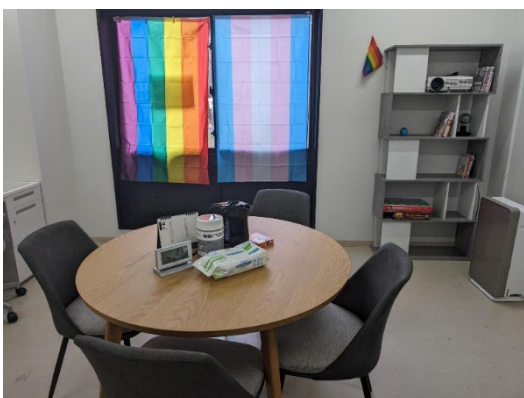
日程：毎週1-2日ほど

場所：筑波大学 人間系学系A棟110

対象：筑波大学の学生・教職員

内容：性的マイノリティの当事者のためのセーフアーススペースを提供する

参加者数：延123人（年間）



グラウンドルール

だれもが安心して参加できる場にするために、グラウンドルール（約束事）を設けています。ルールを守って参加してください。ルールが守れない方には退室をお願いする場合があります。

1. 呼ばれた名前を尊重しよう
2. お互いの発言を尊重しよう
 - ・自分の置かれた状況や気持ちを話すようにしましょう。
 - ・他の人の発言を否定しないで、最後まできちんと聞きましょう。
 - ・話したくないことは話さなくてよいです。
3. 決めつけて話さないようにしましょう
 - ・ジェンダー、セクシュアリティ、国籍やエスニシティ、障害の有無などについて、名前や見た目、自分が受けた印象をもとに、相手について決めつけたり、前提にした発言をしたりしないようにしましょう。「LGBTは～」「女性は～」などではなく、「私はこう思う」で話しましょう。
4. アウティングに気をつけよう
 - ・今日の参加者や、今日ここで話された内容を、他の場所で話さないようにしましょう。
 - ・セーフアーススペース運営側でも、今日話された内容を無断で公表することはありません。

※ご意見、感想、BHEピアスタッフへの加入希望などのご連絡は以下までお願いします。
 <問い合わせ先>
 ヒューマンエンバウメント推進局 ジェンダー支援チーム
 電話：029-853-8504（内線：8504）
 メール：diversity@un.tsukuba.ac.jp

BHE ヒューマンエンバウメント推進局
ジェンダー支援チーム



筑波大学Safer Space Kitekite

筑波大学のSafer Space Kitekiteは、女性や性的マイノリティを含む多様な学生が安全に交流し、関係を築き、学術的な議論を行うための空間です。この空間では、開放時間内であればいつでも訪問可能で、リラックスできる環境で読書をしたり、雑談したり、専門職員に相談や質問をすることができます。



開室時間と場所

時間：週2日間（11:30～16:30）

場所：人間学棟A110

* 具体的な日時はBHEが毎月更新するKitekite時間表をご確認ください。

多彩な学生企画

毎月1回、開放時間内に映画上映、絵画、ボードゲームなど、多様な学生企画を開催します。

* 具体的な日時はBHEが毎月更新するKitekite時間表をご確認ください。

ランチタイム 読書会

Kitekiteでは月2回、ランチ読書会を開催しています。この読書会では、フェミニズムやクィア理論の重要な書籍や論文を選び、昼食をとりながら感想を共有し議論を深めます。

* 具体的な日時はBHEが毎月更新するKitekite時間表をご確認ください。

※セーフスペース(Safer Space)とは…
LGBTQ+や女性をはじめ、全ての人が自らのジェンダー・セクシュアリティについてより安全に話することができる居場所のこと

ぜひ、気軽にKitekiteに来てみてください！
短い時間だけでも大歓迎です！

Kitekiteが誰かの「居場所」
になりますように。

<https://diversity.tsukuba.ac.jp/lgbtq/kitekite>

Official HP



BHE

ヒューマンエンパワーメント推進局
Bureau of Human Empowerment

6

ピアスタッフ企画

2024年11月3日（日）～11月4日（月）筑波大学雙峰祭2024出展 レインボー・リサーチ・ハウス

2024年11月3日・4日に開催された筑波大学の學園祭「雙峰祭」において、BHEジェンダー支援チームは3B301教室にて学術認定企画「レインボーリサーチハウス」を開催しました。

本企画では、ジェンダーやセクシュアリティに関する基礎知識の紹介、学生スタッフによる支援活動の展示・相談案内に加え、茨城県立医療大学とのオープンディスカッションや筑波大学学生によるプチセミナーなど、多彩な対話型プログラムを実施しました。

また、ドキュメンタリー映画『私たちはここにいる！：北京女性会議と中国レズビアン運動の記録』の上映後には、監督を交えたQ&Aセッションと感想共有の時間を設け、来場者が自身の体験を言葉やZINE（自主制作冊子）で表現する場も提供しました。

参加者は、大学間の意見交換や監督との対話を通じて多様性への理解を深めるとともに、ZINE制作を通じて自身の思いや考えを視覚的に整理・表現する機会を得ました。これらの交流を通じて、学生間・大学間の新たなネットワークが構築され、今後の包括的なジェンダー支援に向けた実践的な土台が形成されました。

概要

日程：2024年11月3日・4日

対象：どなたも参加可能

場所：筑波大学 3B棟301

参加者数：20名



2024年11月3日（日）～11月4日（月）筑波大学雙峰祭2024出展 レインボー・リサーチ・ハウス

【企画1】研究ワークショップ

筑波大学でジェンダー・セクシュアリティについて研究している学生が登壇し、自身の研究関心や取り組みについて発表を行いました。発表の機会を設けることで、学内での研究交流を促進するとともに、来場者との相互的な対話も生まれました。

また、茨城県立医療大学の学生を招き、「大学のダイバーシティ推進における学生の役割と可能性」をテーマにラウンドテーブル形式のディスカッションを実施しました。両大学の学生がそれぞれの視点から意見を交わし、実践的なアイデアや課題意識を共有する貴重な機会となりました。これらのプログラムを通じて、学生間・大学間のネットワークが広がり、今後のジェンダー・セクシュアリティに関する包括的支援の基盤づくりに寄与しました。

【企画2】映画鑑賞

中国のフェミニズム運動とレズビアン運動を記録したドキュメンタリー映画『私たちはここにいる！：北京女性会議と中国レズビアン運動の記録』を上映しました。上映後には、映画監督がオンラインで参加し、来場者との質疑応答セッションを実施しました。監督は非常に熱意にあふれた方で、参加者からの質問に丁寧かつ力強く応答されました。この対話を通じて、学生スタッフをはじめとする参加者は大きな刺激を受け、「自分の声を届けることの大切さ」について深く考える機会となりました。特に学生スタッフからは、「監督の言葉に勇気づけられた」といった感想が寄せられ、エンパワメントの場として大きな意義を持つ企画となりました。

【企画3】BHE活動紹介&展示

BHEの活動紹介を目的とした常設展示と、来場者参加型のZINE制作企画を実施しました。展示では、支援チームの取り組み紹介ポスターや広報誌『IMAZINE Vol.2』、学生スタッフの体験記、過去の成果物（TRP関連アート、プライドマンスのポスター、昨年度のZINE）などを紹介しました。また、LGBTQ+やジェンダーに関する基礎知識ポスターも掲示し、自由に学べる空間を提供しました。また、来場者が自身の経験や思いを表現するZINE制作スペースも設け、対話と創作を通じたエンパワメントの場として好評を得ました。



IMAZINEって！？

「IMAZINE」は、2024年11月3日（日）～11月4日（月）筑波大学雙峰祭2024に出展する「レインボー・リサーチ・ハウス」の企画の一つです。本企画では、中国のフェミニズム運動とレズビアン運動を記録したドキュメンタリー映画『私たちはここにいる！：北京女性会議と中国レズビアン運動の記録』を上映し、映画監督がオンラインで参加し、来場者との質疑応答セッションを実施しました。監督は非常に熱意にあふれた方で、参加者からの質問に丁寧かつ力強く応答されました。この対話を通じて、学生スタッフをはじめとする参加者は大きな刺激を受け、「自分の声を届けることの大切さ」について深く考える機会となりました。特に学生スタッフからは、「監督の言葉に勇気づけられた」といった感想が寄せられ、エンパワメントの場として大きな意義を持つ企画となりました。

BHEジェンダー支援チームでの一年間を振り返る～保井啓志先生～

2023年2月から2024年11月までの1年間で、BHEジェンダー支援チームは、筑波大学でジェンダー・セクシュアリティに関する活動を行っています。この一年間、私たちは多くの学生と協力し、様々な活動を通じて、ジェンダー・セクシュアリティに関する意識を高め、多様な人々の声を届けることができました。特に、中国のフェミニズム運動とレズビアン運動を記録したドキュメンタリー映画『私たちはここにいる！：北京女性会議と中国レズビアン運動の記録』の上映と、映画監督とのオンライン対話セッションは、大きな成功でした。また、ZINE制作スペースの設置や、LGBTQ+に関する基礎知識ポスターの掲示など、来場者が学び、表現できる場を提供することができました。今後も、私たちは引き続き、ジェンダー・セクシュアリティに関する活動を行い、多様な人々の声を届けることを目指します。



2024年9月9日（月）TIDE異業種交流会

筑波大学では、2018年度から日本アイ・ビー・エム株式会社、産業技術総合研究所と一緒に「女性研究者・技術者の異業種交流会」を開催してきました。今年で7回目を迎え、これまで以上に多彩な交流が生まれました。

2024年9月9日（月）に行われた今回の交流会では、「私のキャリアとWell-being」というテーマのもと、5名の方にそれぞれ5分間のプレゼンテーションをしていただきました。日々のモチベーションの保ち方や、研究から新しい活動へと広がっていくプロセスなど、さまざまな視点から「Well-being」について語っていただき、参加者同士の共感や気づきが生まれる時間となりました。

プレゼンテーション後には、審査員4名による協議が行われ、日本アイ・ビー・エム株式会社の韓愛利さん、筑波大学の岩田祐佳梨さんが「TIDE Women's Award 2024」を受賞されました。お二人の取り組みと想いが、多くの参加者にとって刺激となり、今後のキャリアや働き方を考えるヒントにもなったのではないのでしょうか。

概要

日時：2024年9月9日（月）15:00-17:00

場所：筑波大学 東京キャンパス 1-121教室

参加対象：どなたでも参加可

参加者数：36名



2024年9月9日（月） TIDE Women's Award 2024授賞式

この顕彰は、さまざまな分野で活躍されている優れた女性研究者・技術者の方々を讃えることを目的として、2018年度より「TIDE Women's Award」としてスタートしました。研究だけでなく、教育や地域への貢献、機関内外での幅広い活動に取り組まれている女性研究者・技術者の方々を対象に顕彰することで、受賞者ご本人はもちろん、これから続く多くの方々の励みとなることを目指しています。

また、この顕彰を通じて、教育・研究・社会貢献などへの意欲を高め、学術研究や科学技術の未来を担う人材の育成にもつなげていきたいと考えています。

2024年度は、日本アイ・ビー・エム株式会社の韓愛利さんと、筑波大学の岩田祐佳梨さんが「TIDE Women's Award 2024」を受賞されました。

～受賞者コメント～

自分自身のキャリアは、プランを描けていると胸を張って示せるようなものではないのですが、迷いながらも、自分が進むべきだと思う道を根拠なき自信を持ちながら歩いてきました。それに対して、皆さんが共感してくださったことが大変嬉しく思います。他の発表者の皆さんのお話も大変興味深く、勇気づけられるものでした。（岩田祐佳梨氏）

日本アイ・ビー・エム株式会社

韓 愛利氏



筑波大学

岩田 祐佳梨氏



2024年10月4日（金）女性向け企業横断研修

「自分らしい強みを活かして、影響力を発揮できるリーダーになる」

株式会社カレイディストとの共催により、「組織横断型女性リーダー育成プログラム」を開催しました。本プログラムは、企業や大学など異なる組織に所属する女性リーダーが互いに学び合い、キャリア形成や組織への影響力を高めることを目的としたものです。今回は、女性管理職およびリーダー候補14名が参加しました。

組織風土や業務内容が異なる企業と大学では、上司・部下との関係性や学生との関わり方など、日々のコミュニケーションの課題も多様です。しかし、グループワークを通じて対話を重ねる中で、共通する悩みや経験が浮かび上がりました。特に、「女性であること」に起因して任される業務や期待される役割については、組織の違いを超えて似た体験を共有する場面が多く見られました。異業種・異組織の参加者同士が率直に語り合う機会は貴重であり、参加者にとっては自身の経験を再認識するとともに、新たな視点を得る有意義な時間となりました。今後も、こうした学び合いの場を継続的に提供していくことで、女性リーダーの活躍をさらに後押ししてまいります。

研修後に実施したアンケートでは、参加者の自己評価に明らかな変化が見られました。特に「リーダーとしての自信や知識」に関する項目では、肯定的な回答が研修前と比べて30%以上増加し、自己理解の深化とともにリーダーシップへの自信が高まったことがうかがえます。

また、中長期的なキャリア展望についても、将来を具体的に考えるようになった参加者が増え、「キャリアアップに向けて動き出したい」という前向きな意識が高まりました。「ステップアップしたい」という意欲にも大きな変化が見られ、意思決定や昇進に対する積極的な姿勢が強まったことが確認されました。本プログラムは、今後の女性リーダー育成に向けた有意義な取り組みとなりました。

概要

日時：2024年10月4日（金）

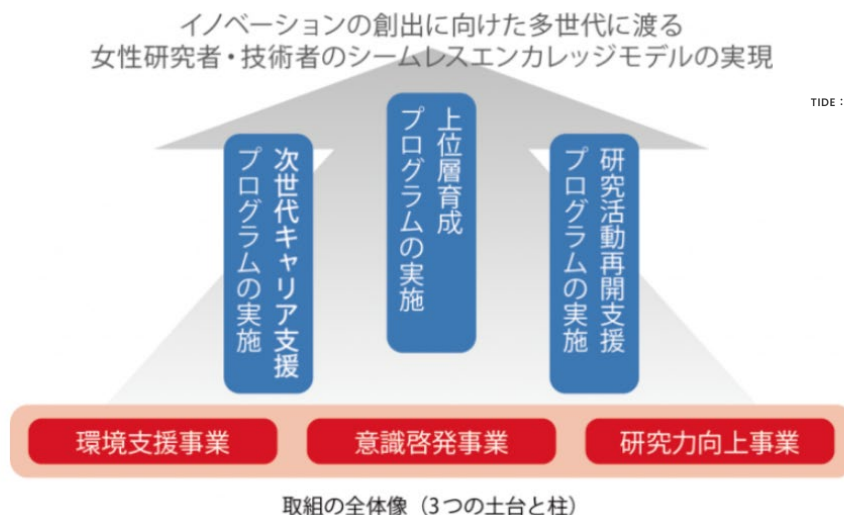
場所：筑波大学 東京キャンパス 1-134教室

参加者数：筑波大学からは14名が参加



TIDE（タイド）とは、筑波大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、産業技術総合研究所による平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の活動名「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現」を目指して（Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment）」の略称です。

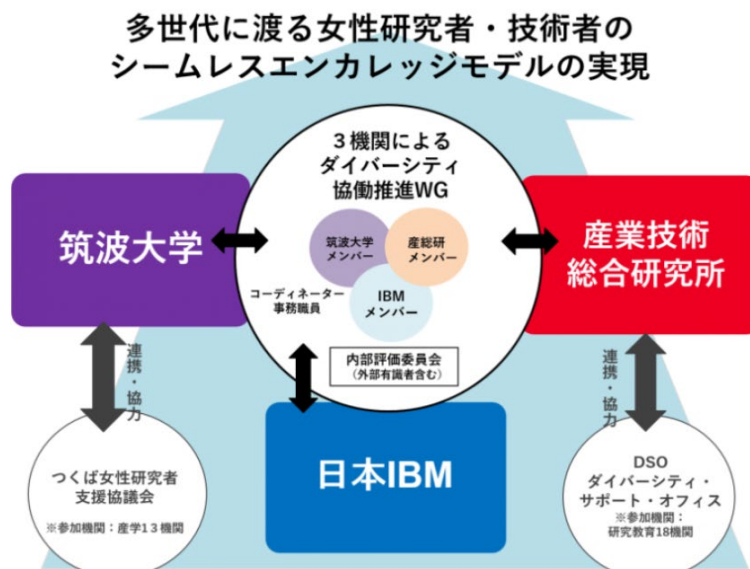
3機関が連携して女性研究者・技術者の採用や活躍を加速するための「3つの土台」と「3つの柱」となる取組を実施しています。産学官の多様な視点に基づく女性研究者・技術者支援を牽引することで、イノベーション創出に向けた「多世代に渡る女性研究者・技術者のシームレスエンカレッジモデルの実現」を目指します。



TIDE : Tsukuba Advancing Initiatives for Diversity and the Environment

代表機関：国立大学法人筑波大学
共同実施機関：日本アイ・ビー・エム株式会社
国立研究開発法人産業技術総合研究所

TIDEの実施体制



8

LGBTQ+への対応

大学としての支援の取組

筑波大学では、平成27年度からLGBTQ+のセクシュアル・マイノリティの学生に対して、これまでの個別対応から大学としての支援の取組を始めました。具体的には以下のような取組を行っています。

窓口設置

相談窓口の設置

啓発

授業やセミナー、
学内FD等での啓発

ガイドライン

基本理念と対応ガイ
ドラインの作成

グッズ作成

アライグッズの作成

とくにトランスジェンダーや性別に違和をもつ学生には、これまでも次のような点について対応しています。

- 氏名の取扱い
- 使用トイレ
- 教育実習やインターンシップ
- 名簿等における性別の取扱い
- 健康診断
- キャリア相談、就職相談 など

また、教職員への対応として、令和2年4月からパートナーがいる教職員（地方自治体等によるパートナーとして証明する書類が発行された教職員）の福利厚生として、休暇、休業、諸手当及び旅費等の対応を行っています。

詳細については、令和6年3月に改訂した『LGBTQ+に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン』及びホームページよりご確認ください。



LGBTQ+の対応ガイドライン



筑波大学
University of Tsukuba



筑波大学
University of Tsukuba

LGBTQ+



本基本理念・ガイドラインは、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの「表示」(CC BY 4.0)により利用できます。

BHE Bureau of Human Empowerment
University of Tsukuba

国立大学法人 筑波大学
ヒューマンエンパワーメント推進局 (ジェンダー支援チーム)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 スチューデントプラザ2階 Tel: 029-853-8504
E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp https://diversity.tsukuba.ac.jp/

平成29年3月初版
平成30年3月改訂
令和2年3月改訂
令和3年3月改訂
令和6年3月改訂

に関する 筑波大学の基本理念と 対応ガイドライン

Printed by ISEBU Co., Ltd.

*LGBTQ+とは、Lesbian・Gay・Bisexual・Transgender・Questioning/Queer及び他のSOGI（性的指向及び性自認）のあり方を含む総称とします。これらのカテゴリーに直接当てはまらない場合もありますが、筑波大学の基本理念と対応ガイドラインにおいては包括しています。

CONTENTS

04	I	筑波大学におけるLGBTQ+の性自認及び性的指向を理由とした差別の禁止及び解消に関する基本理念 Basic principles on prohibition and resolution of discrimination based on sexual orientation and gender identity of LGBTQ+ at University of Tsukuba
06	II	LGBTQ+に関する概要と本学での支援体制
07	III	現状での具体的対応と方針
07	凡例	1 相談について ① 相談窓口 ② 相談の流れ ③ 学生相談及び保健管理センター（精神科）等との連携
09	2 氏名・性別の情報とその管理について	① 氏名の変更 ② 性別の変更 ③ 性別情報の取り扱い ④ 大学の発行する証明書の性別記載 ⑤ 大学に提出する諸書類における性別情報の記入
14	3 授業について	① 体育実技の履修、更衣室、用具の配慮 ② 学外実習（教育実習等）の履修 ③ 授業におけるグループ分け ④ 授業等における呼称
15	4 学生生活について	① 定期健康診断 ② 学生宿舎 ③ 多目的トイレ ④ 入学式・卒業式の服装と身なり
16	5 就職活動・キャリア支援について	① 就職活動・インターンシップへの支援体制 ② LGBTQ+の当事者にとっての就職活動 ③ 本学におけるLGBTQ+の当事者へのキャリア支援
17	6 周囲の対応、特にカミングアウトについて	① カミングアウトとは ② 自己決定と情報のコントロール ③ カミングアウトとアウティング ④ カミングアウトが必要などときには ⑤ カミングアウトされたときには ⑥ 周囲の対応について
19	7 教職員への対応について	① パートナーがいる教職員の福利厚生について ② 申請手続きについて
21	IV	対応項目一覧
24	V	おわりに
24	1	筑波大学のLGBTQ+に関する取組紹介 ① 学生と教職員の協働 ② ジェンダー・セクシュアリティ関連授業の開講
25	2	ヒューマンエンパワーメント推進局より
26	付録	ツールボックス (1) 相談の際に (2) 自分を見つめてみる (3) 卒業・修了後の証明書発行における氏名の変更について (4) 学外に提出する書類の性別記載について (5) マイナンバーカードについて (6) 体育の授業における男女別要素について (7) 多目的トイレについて (8) 就職活動の前に (9) 就職活動について：LGBTQ+にフレンドリーな企業等の指標 (10) 自分を偽るというつらさ (11) カミングアウトしない生き方へクローズド〜 (12) カミングアウトを強要しないで (13) カミングアウトの前に (14) カミングアウトされたときに (15) メディアや作品により作られるステレオタイプ (16) LGBTQ+を支援したいという方へ (17) 「当事者」ってだれなんだろう。
35	巻末資料	(相談窓口一覧・LGBTQ+に関する相談窓口ポスター)

別冊 ワークシート (CARIO-NEXT Lワークシート群)

※ワークシートは、ヒューマンエンパワーメント推進局 (ジェンダー支援チーム) のウェブサイトで公開しています。(https://diversity.tsukuba.ac.jp/)

②性別の変更

【本学の対応状況】 氏名の変更と異なり、戸籍の性別の変更に伴う場合を除いて、学籍簿等での性別の変更は対応できません（令和6年3月時点）。

③性別情報の取り扱い

【全般的事項】 とりわけ自認する性と戸籍上の性に違和を感じる人にとって、性別情報はアイデンティティに関わる重要な情報です。例えば、戸籍上の性別は女性であっても、それを越えられた範囲の人にカミングアウトして男性として生活しているトランスジェンダーの場合、戸籍上の「女性」という性別情報が本人の意図しない形で外部に知られることは耐え難いことです。このような性別情報の取り扱いに疑問を持たれることもあります。かつて名簿に当たり前に記載されていた個人の住所や電話番号が、個人情報観点から現在は記載されないようになったのと同じ状況と言えます。

【本学の対応状況】 本学では、意図しない形で性別情報が公表されることがないよう、特に名簿とTWINS（筑波大学の教育情報システム）での性別情報の取り扱いについて、下記のように取り組んでいます。

●名簿

本学では教職員に対して、学生に配布・掲示する名簿については、原則としていかなる文書についても性別欄を除外して配布・掲示するよう、全学的に周知、徹底を図っています。教員の会議等でも、性別情報を含む個人情報については慎重に取り扱うことを進めています（例：会議資料とする際には性別情報を伏せて取り扱う等）。

●TWINS

TWINSで性別情報にアクセスできる権限を有するのは、指導教員と組織長の教員（学類長や学位プログラムリーダー等）、教務担当・学生担当の職員のみです。このうち、名簿として出力等の操作ができる権限は、教務担当・学生担当の職員のみが有しています。本学では上記の教職員に対して、性別情報を含めた個人情報の取り扱いに関する研修だけでなく、LGBTQ+に関する研修を受けることを推進し、性別情報の慎重な取り扱いを広く啓発していきます。

【主に当事者へ】 上記のように、本学では性別情報は限られた範囲で取り扱われています。今後も、性別情報が慎重に取り扱われるよう、周知・徹底を図りながら、改善を目指します。

④大学の発行する証明書の性別記載

【本学の対応状況】 本学で発行する証書等のうち、主なものの性別記載の有無は下記のとおりです（より詳細な情報はBHE（ジェンダー支援チーム）のホームページ（<https://diversity.tsukuba.ac.jp/>）に記載しています）。今後、さらに情報を集めるとともに、各証書等で性別の記載が本当に必要かどうかを含め、検討していきます。また、各組織（支援室や学類、専攻等）においても同様の方針で対応を進めていきます。

＜性別記載のないもの（令和6年1月時点）＞

学位記、成績証明書、卒業（修了）見込証明書、在学証明書、在籍証明書等

＜性別記載のあるもの（令和6年1月時点）＞

健康診断証明書等

卒業後の証明書発行については、ツールボックスの情報をご覧ください。➡**ツールボックス(3)**

⑤大学に提出する諸書類における性別情報の記入

【本学の対応状況】 大学に提出する諸書類のうち、主な書類への性別情報の記入の有無については下記のとおりです（より詳細な情報はBHE（ジェンダー支援チーム）のホームページ（<https://diversity.tsukuba.ac.jp/>）に記載しています）。今後、さらに情報を集めるとともに、各書類で性別情報の記入が本当に必要かどうかを含め、検討していきます。また、各組織（支援室や学類、専攻等）においても同様の方針で対応を進めていきます。

＜性別記載のないもの（令和6年1月時点）＞

入学科・授業料免除申請、自転車等登録申請書、文書等掲示・配布願、学生証再交付願等

＜性別記載のあるもの（令和6年1月時点）＞

学生宿舍入居申込書、事件・事故届等

学外に提出する書類については、ツールボックスの情報をご覧ください。➡**ツールボックス(4)**

【主に当事者へ】 これらの提出に先立ち、事前に相談することで性別記載欄を未記入のまま提出することも可能です。詳細はBHEまでご相談下さい。➡**ツールボックス(5)**

④カミングアウトが必要なときには

【主に当事者へ】 カミングアウトの必要がありそうなときは、先に内容や状況を整理するのがよいと思われます。その際に活用できるワークシートを準備しています。➡**ツールボックス(13)**

大学の教職員に対してどう伝えればよいかなど迷う場合はBHEに相談することができ、守秘義務を負った担当者が関係各所と連携しながら対応します。もちろんアウティングで困っている場合も、相談窓口を通して対処することができます。また、LGBTQ+に関するサークルといったコミュニティに参加して、まずLGBTQ+の人々や理解者とふれあうという選択肢もあります。BHEでは、このようなコミュニティを紹介することもできます。

⑤カミングアウトされたときには

【周囲の方へ】 それまで表にしていなかった秘密を打ち明けられたとき、戸惑いを感じる人も多くいるものです。そのようなときは打ち明けた本人からの希望を踏まえながら受け止めるのが一番ですが、対応の一助としてその際に活用できるワークシートを準備しています。➡**ツールボックス(14)・(15)**

「誰にも言わないで欲しい」と言われてカミングアウトされたとしても、守秘義務のある相談窓口で相談することができます。カミングアウトに対してどうすればいいかわからないとき、何か気になることがあるときは、カミングアウトされた側もBHEに相談に来て下さい。

【全般的事項】 誤解されることがありますが、カミングアウトは「あなたは私の性的対象だ」といった宣言や性的関係の要求ではなく、いわゆるハラスメントとは全く異なります。突然それまでの人間関係を破壊しようとして行われるものでもありません。

⑥周囲の対応について

LGBTQ+を含めた学生や教職員が大学において過ごすにあたり、他のマイノリティの場合と同様に周囲の対応が重要であることは言うまでもありません。LGBTQ+の学生や教職員と連帯して支援する人々はアライ（ally）と呼ばれ、当事者支援の大きな力となります。こうした協力をしたいという人とLGBTQ+の人々をつなげるためのワークシートも準備しています。➡**ツールボックス(16)**

7 教職員への対応について

①パートナーがいる教職員の福利厚生について

【本学の対応状況】 筑波大学では、令和2年4月1日より、パートナーがいる教職員（地方自治体等によるパートナーとして証明する書類が発行された教職員）の福利厚生として、休暇、休業、諸手当及び旅費等の対応を行うこととなりました。具体的には、パートナーがいる教職員の能力が存分に発揮できる教育研究環境や就業環境の整備に資するため、以下の就業規則等に規定されている、「配偶者」又は「妻」の文言を「パートナー」に読み替えるための就替規定を制定しました。詳細については、BHEまでご相談下さい。

- 就業規則
- 採用、昇任、退職等に関する規程
- 給与に関する規則
- 手当に関する規程
- 勤務時間及び休暇に関する規則
- 勤務時間及び報酬に関する規則
- 育児休業及び介護休業等に関する規程
- 出張及び旅費に関する規則

※該当する休暇、休業、手当及び旅費等は次のとおりです。

（休暇関係）

結婚休暇、妻の出産のための休暇、妻の出産に伴う子の養育休暇（常勤職員のみ）、子の看護休暇、介護休暇及び忌引休暇

（休業関係）

育児休業、介護休業、育児短時間勤務及び配偶者同行休業

注）雇用保険法に基づき支給される、育児休業手当金及び介護休業手当金相当の手当は支給しません。

つくば Career Portfolio
CARIO-NEXT Lワークシート

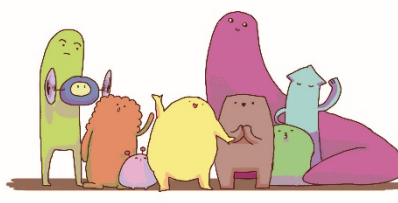
「あなただけの、あなたの強さ。」

CARIO-NEXT Lワークシートとは？

筑波大学はあらゆる面で「開かれた大学」という理念のもと、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究を目指しています。本来の違いを持つ学生及び教職員がすべて尊重されるよう、本学では様々な取り組みを進めてきました。その中で2017年3月に策定されたのが、「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」です。

この大学に入学したあなたは、他の誰でもない「あなた」です。どんな人も他の人との「違い」を持っていますが、それは力になることも時にハードルになることもあるでしょう。そこで、もし困難に直面していたら助けとなり、あなたならではの能力が存分に発揮されるよう、**CARIO**に新しく「**CARIO-NEXT**」を設けました。その第1弾が、ガイドラインに対応しLGBTQ+を主な対象とした「Lワークシート」です。

これは、使う人をLGBTQ+に限定したワークシートではありません。大きな「違い」を持った人に向けたツールだからこそ、そうでない人にも大きな役割を果たしてくれるはずです。



①

Career Portfolio Worksheet L-11

記入日 年 月 日

回っていること整理シート

このシートは上から順番に書き、必要に応じて複数枚作成します。チェックは複数可で、必要ない事項は記入しません。

(1) この回りはどれに該当する？ (複数チェック)	☐ ① 性指向 (どのような性愛をするか) ☐ ② 性自認 (自分はどういう性か) ☐ ③ 社会的な性 (服装など) ☐ ④ 恋愛傾向 (どのような性に向きあうか) ☐ ⑤ 身体的要因 ☐ ⑥ 精神的要因 ☐ ⑦ 精神的要因 (メンタルなど) ☐ ⑧ 自分自身に対して ☐ ⑨ 誰か相手との関係で ☐ ⑩ 職場や社会との関係で ☐ ⑪ 自分自身の気持ちを抑えたい/うまく表れていない ☐ ⑫ 自分がわからない/整理できない ☐ ⑬ 適切な行動をしてほしい ☐ ⑭ 行動自体が取れない ☐ ⑮ 自分がどうすればよいかわからない
(2) 回っていることの内容は？ (キーワードで可)	
(3) いつから？	☐ ① ここ1ヶ月以内 ☐ ② ここ半年以内 ☐ ③ ここ1年以内 ☐ ④ 入学以降 (年入学) ☐ ⑤ 高校生以降 ☐ ⑥ 中学生以降 ☐ ⑦ ずっと ☐ ⑧ わからない ☐ ⑨ その他()
(4) いつまでに解決したい？	☐ ① いま ☐ ② できるだけ早く ☐ ③ 時には決まらなければならない ☐ ④ 一定の期間が経ってから(どんな時？ →) ☐ ⑤ その他()
(5) どこまで解決したい？	☐ ① 完全に問題が解決するまで ☐ ② 問題が軽減するまで ☐ ③ 半分程度の解決でもよい ☐ ④ 多少なりとも解決されればよい ☐ ⑤ 解決に向かえば、程度程度でよい ☐ ⑥ 完全に解決されなくてもよい ☐ ⑦ 解決する意思はない ☐ ⑧ どのくらいかわからない ☐ ⑨ その他()
(6) これに関係する人は？	☐ ① 友人 ☐ ② 恋人 ☐ ③ クラスメイトや研究チームメンバー ☐ ④ 先輩 ☐ ⑤ 同僚 ☐ ⑥ 指導・担当する学生 ☐ ⑦ 時にいない ☐ ⑧ 覚えてくれない ☐ ⑨ その他()
(7) 補足、メモ	

© University of Tsukuba All Rights Reserved.

「アライ」とは、英語で「同盟、支援」を意味するallyが語源です。私たちは、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー）だけでなく、いわゆるストレートを含む多様なセクシュアリティの存在を認識し、共にいること／在ることを表明する人を、当事者・非当事者を問わず指す言葉として使います。同時にアライは、私たち全てが一ひとりオリジナルなセクシュアリティを有するかけがえのない存在であることを尊重します。



筑波大学
University of Tsukuba

制作：筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1丁目1-1
E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp
協力：NPO法人Ubdobe

全ての人を包み込む寛容な光を、偏見が消える。その日まで

アライシンボルマークが持つ3つの要素



このマークには「太陽」、「波紋」、「紫陽花」の3つのシンボルが描かれています。それぞれに込められた意味を融合しアライシンボルマークが完成しました。



太陽
太陽は全ての生命と色の源であり、あらゆる人々を照らし、世界に彩りを与えます。このマークに描かれた太陽も全ての人々を平等に照らし、多様な輝きを生む光を放ちます。



波紋
水面に小石を投げると綺麗な波紋がゆるやかに広がり、消えていくように、小さな一歩でもセクシュアリティへの偏見を少しずつ消していき、いつしかマイノリティが特別な存在ではなくなるイメージを表現しています

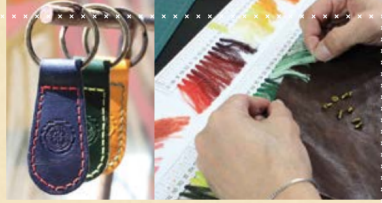


紫陽花
白く華やかな美しさを持った白い紫陽花の花言葉は「寛容」を意味します。ありのままの多様なセクシュアリティについて、自分に対して他者に対しても寛容であることを表します。

アライシンボル 制作者について

このアライシンボルは、筑波大学と学生の協働によって、「アライ」に対する理解や普及を広げるために制作されました。

※アライシンボルをつけていることで、セクシュアル・マイノリティ当事者であるということを表しているわけではありません。



work with Pride「PRIDE指標 2024」※1

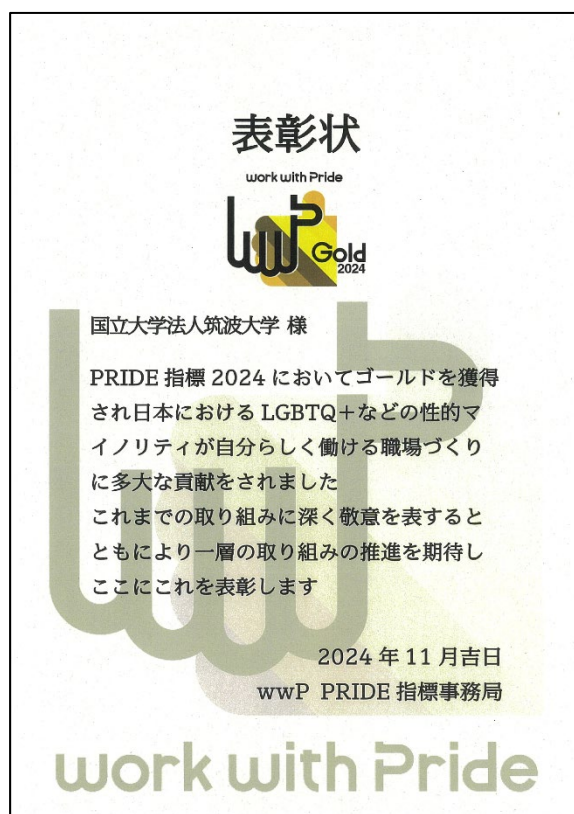
令和6年11月に開催された「work with Pride2024カンファレンス」にて、本学のLGBTQ+に関する取組が「PRIDE指標2024」において7度目となる【GOLD】を受賞することができました。本学での学生・教職員への継続的な取組が評価され、受賞へと繋がりました。

※1 任意団体work with Prideにより策定された、2016年に日本初めてとなる、企業、団体等におけるLGBTQ等の性的マイノリティ（以下、LGBTQ）に関する取組の評価指標です。LGBTQの人々が誇りを持って働ける職場の実現を目指して指標の名称を「PRIDE指標」とし、「企業・団体等の枠組みを超えてLGBTQが働きやすい職場づくりを日本で実現する」ために、以下の5つの領域において取組を評価するものです。

- ・ Policy（行動宣言）
- ・ Representation（当事者コミュニティ）
- ・ Inspiration（啓発活動）
- ・ Development（人事制度・プログラム）
- ・ Engagement/ Empowerment（社会貢献・渉外活動）

今後

本学は建学の理念である「開かれた大学」を掲げ、さまざまな属性をもった多様な人材の活躍こそがイノベーション創出の源泉であると強く認識しており、今後も引き続きLGBTQ+を含むダイバーシティ推進に取り組んでいきます。



2024年7月24日（水）第1回 ダイバーシティ・マネジメント・サミット

本サミットでは、筑波大学がこれまで取り組んできた女性研究者のキャリア支援の実績（採用、上位職登用、環境整備など）が紹介されました。第四期中期目標・中期計画に基づき、今後の具体的な実行策への展開が期待されています。

当日は、女性教職員の割合や昇進に関する対策についても議論が行われ、各系・研究センターに応じた目標設定や取り組み案が、2025年2月の次回サミットで発表される予定です。「女性参画率30%の達成」に向けた課題と展望についても活発な意見交換がなされました。

基調講演では、ジェンダー・ギャップ解消に向けた国際的動向と日本の課題が共有され、筑波大学にも改善の余地があることが指摘されました。グループディスカッションでは、女性限定公募制度やライフイベントによるキャリア停滞への支援、家庭内無償労働への対応など、具体的な方策が提案されました。最後に、こうした取り組みを大学全体で迅速に進めていく必要性が確認され、今後の目標設定と実行に向けた意識が共有されました。

概要

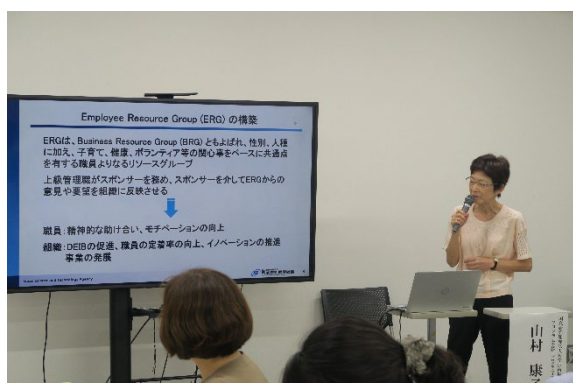
日時：2024年7月24日（水）10:00～12:00

場所：筑波大学 本部アネックス棟

講師：山村康子（科学技術振興機構）

国内外の大学におけるジェンダー・ギャップ改善に向けた動向と筑波大学への期待

参加者：学長・副学長・学長補佐室長・各系長・各センター長・各系長特別補佐・各センター長特別補佐



2025年3月4日（火）第2回ダイバーシティ・マネジメント・サミット

第2回サミットでは、各学系・研究センターが設定した具体的な目標や行動計画の報告が行われ、それをもとに活発な議論が交わされました。特に今回のサミットのテーマとなったのは、女性教員の比率向上に向けた取り組みです。各部局に対しては、従来よりも高い目標設定が求められ、単なる数値目標にとどまらず、女性が定着・活躍しやすい環境づくりや、国際的な人材の獲得に関する課題についても具体的な議論が行われました。これらは、大学全体の競争力や多様性推進に直結する重要なテーマとして位置づけられています。

また、職場環境の改善策として、育児支援の充実、柔軟な勤務体制の構築、夫婦での雇用枠の設置といった提案もあり、今後の制度設計に向けた前向きな意見交換が行われました。

本サミットを通じて、筑波大学におけるダイバーシティ推進の具体的な方向性が共有され、実効性のある施策の展開が期待されます。

概要

日時：2025年3月4日（火）10:00～12:00

場所：筑波大学 本部棟5階 大会議室

参加者：学長・副学長・学長補佐室長・各系長・各センター長・各系長特別補佐・各センター長特別補佐

前回

- ・ 「ジェンダー・ギャップ」をテーマ
- ・ 大学および各部局の女性研究者の実状について共有と意見交換
- ・ 終了後に各部局での課題分析と目標・行動計画の策定を依頼

今回の目的

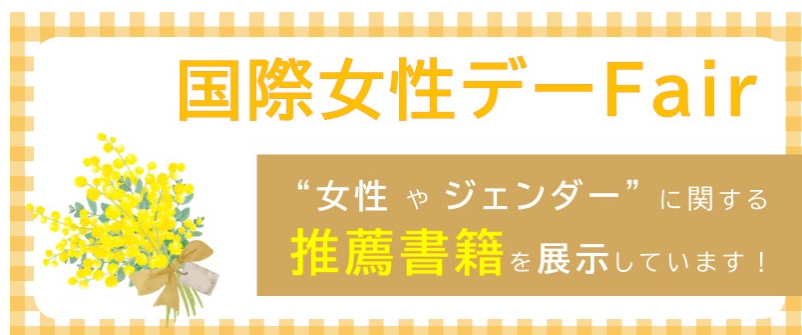
- ・ 提出された各部局の課題分析と目標・行動計画の説明と進捗状況を執行部と共有すること
- ・ 明らかになった課題について具体的な解決方法を協議する



2025年3月4日～22日国際女性デーフェア書籍展示

2025年3月8日の「国際女性デー」に関連した企画として、3月7日（金）から21日（金）までの期間、筑波大学中央図書館2階にて、女性やジェンダーに関する書籍の展示を行いました。

この展示では、筑波大学の教職員や学生が推薦する書籍を、推薦理由とともに紹介しました。展示された書籍はすべて貸出可能で、多くの方に女性やジェンダーに関する本を手にとっていただく機会となりました。



〓 医学医療系 橋爪 祐美先生のおすすめ /
働く女性の介護生活 在宅介護者の支援へのアプローチ

老親介護に関する日本古来の価値観に対し「時代が変わった」という認識のもと自己実現してゆく女性の姿を探究しています。私の高齢者ケアにおけるジェンダー支援研究の契機となったものです。



〓 ジェンダー支援チーム 保井 啓志先生のおすすめ /

女性たちの保守運動 右傾化する日本社会のジェンダー

右傾化しているといわれる日本社会の保守運動について、ジェンダーの視点から、女性がどのように保守運動にかかわり、どのような性質を持っているのかについて分析した書籍。



推薦図書のご案内

『フェミニズムってなんですか？』 清水晶子

フェミニズムとクィア・スタディーズが専門の著者が、フェミニズムを知らない層に向けて書いた入門書

『なぜ理系に女性が少ないのか』 横山広美

理系女性の少ない要因について分析された本ですが、これをもとに、文理を超えて本当にやりたいことを追求することが大事だと思います。

2025年3月5日、14日 国際女性デー企画 オンラインセミナー

2025年3月8日の「国際女性デー」に関連したイベントとして、「更年期障害」と「不妊治療」をテーマにしたオンラインセミナーを開催しました。

どちらのテーマも、仕事や学業との両立のために正しい知識が求められる一方で、周囲と気軽に話づらい内容でもあります。そこで今回は、オンライン・オンデマンド配信を取り入れ、より参加しやすい形で実施しました。当日は、ピルの服用と更年期障害の関係や、男性の加齢と不妊に関する質問なども寄せられ、参加者の悩みに寄り添いながらセミナーを進行しました。

なお、本セミナーの開催にあたっては、Carefull株式会社に運営を委託しました。

概要

方法：オンライン（Zoom）※後日見逃し配信

対象：筑波大学に所属する教職員・学生

●『更年期障害の基礎知識』

日時：2025年3月5日（水）12:15-13:15

講師：竹田 将人 医師（産婦人科医）

参加者数：当日参加者28名、動画視聴115回

●『不妊治療に関する知識と職場のコミュニケーション』

日時：2025年3月14日（金）12:15-13:15

講師：大岡 令奈 医師（産婦人科医）

参加者数：当日参加者10名、動画視聴26回

オンラインセミナー

性別を問わず
必見！

不妊治療に関する知識と 職場でのコミュニケーション

2025.3.14（金） 12:15~13:15

これから参加したい
更年期障害の基礎知識
不妊治療に関する知識

今や12人に1人の卵子さんが体外受精により出生していることをご存じですか？
不妊治療の基礎知識はもちろん、職場で欠かせない不妊治療の相談をする
受けた際に注意したいコミュニケーションのポイントをお伝えします。

プログラム	講師
不妊治療とはどんなもの？ 不妊の原因と自覚からわかること（男性・女性別） 不妊治療のタイミング 検査や治療の流れ 不妊治療に関する悩み・疑問 不妊治療中の周りの理解やサポート、コミュニケーション	大岡 令奈 慶応義塾大学医学部卒業、 慶応義塾大学医学部助産師、 日本産婦人科学会専門 医、現在は生殖医療を中心に医 療に従事。

BHIE
 日本産婦人科学会
 日本産科婦人科学会
 主催：ビューティファクトリー株式会社（BHIE）シンデレラ支援チーム

当日は質疑応答（匿名）の時間がございます。
ご質問がある方は是非ご質問ください。

carefull

オンラインセミナー

不安解消！
性別問わず
必見

更年期の基礎知識

2025.3.5（水） 12:15~13:15

これから参加したい
更年期障害の基礎知識
不妊治療に関する知識

更年期の症状や対処方法などについて知らずに存続してしまうか、更年期の発
分け方、セルフケアを学び、上手に付き合っていくことで、職場でのパフォーマンスを
向上させませんか？

プログラム	講師
女性ホルモン・男性ホルモンの変動 閉経や更年期の定義、ご存じですか？ 更年期障害の診断の流れ 更年期に症状に関する研究って？ 更年期障害の治療・セルフケア 男性更年期障害の診断と治療 質疑応答	竹田 将人 慶応義塾大学医学部卒業、 慶応義塾大学医学部助産師、 日本産婦人科学会専門 医、現在は生殖医療を中心に医 療に従事。

BHIE
 日本産婦人科学会
 日本産科婦人科学会
 主催：ビューティファクトリー株式会社（BHIE）シンデレラ支援チーム

当日は質疑応答（匿名）の時間がございます。
ご質問がある方は是非ご質問ください。

carefull

育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援 事業 ダイバーシティ環境整備費 事業

筑波大学では、平成23年度より、出産・育児等により研究が中断しやすい女性研究者等を対象に、「育児等との両立のための研究・事業補助者雇用経費助成制度」を開始しました。平成30年度からは支援対象を拡大し、「育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業」として継続的に実施しています。また、平成22年度からは、管理運営業務等に携わる女性研究者の参画促進を目的に「補助者派遣事業」を開始し、平成24年度からは外国人研究者等も対象に加え、「管理運営業務を行う女性・外国人等への業務補助者雇用経費助成制度」として展開しています。

令和6年度は「育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業」50名の研究者へ支援を実施しました。令和6年度は「ダイバーシティ環境整備」の一環として、各学系・研究センターが実施するダイバーシティ推進に関する取り組みに対し、事業費の支援を行いました。本支援は、学内の多様性促進を加速させることを目的としており、今年度は計6組織に対して支援を実施しました。

- 時間的・精神的な負担が大きく、本事業による支援がなければ困難だったと思います。いただいた支援により業務の一部を効率化し、限られた時間の中でも研究を継続・発展させることができました。
- 研究費の少なくなる中、このように金額的に支援をしていただけるのは大変ありがたかったです。
- 育休からの復帰にあたり、研究費に応募して使用できるようになるまでの間、とても効率よく利用させていただきました。

引き続き、ライフイベント期においても研究を継続できるよう、また管理運営業務を行う方々のダイバーシティを高めるべく、支援を継続してまいります。

育児・介護等との両立のための研究継続・復帰支援事業利用者

	研究員	助教	講師	准教授	教授
平成25年度	0%	44%	11%	44%	0%
平成26年度	10%	20%	10%	60%	0%
平成27年度	8%	31%	15%	46%	0%
平成28年度	9%	32%	32%	27%	0%
平成29年度	5%	52%	16%	25%	2%
平成30年度	9%	57%	9%	25%	0%
令和元年度	10%	64%	10%	15%	0%
令和2年度	10%	54%	15%	15%	5%
令和3年度	9%	55%	11%	18%	7%
令和4年度	0%	77%	10%	10%	3%
令和5年度	13%	54%	8%	21%	4%
令和6年度	16%	56%	12%	12%	4%

ベビーシッター割引券

筑波大学では、育児支援の一環として、こども家庭庁の委託を受け公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「ベビーシッター派遣事業割引券」により、ベビーシッター料金の補助を行っています。この事業は、仕事と子育ての両立による負担の軽減に加え、児童の健全な育成に寄与することを目的として、ベビーシッター利用料金の一部が助成されます。

割引券の電子化や規約の変更による配布枚数の制限等もございましたが、今年も多くの教職員のみなさまにご利用いただきました。



ベビーシッター割引券の利用者と利用枚数

	利用者数	利用枚数
平成22年度	7名	13枚
平成23年度	3名	6枚
平成24年度	6名	34枚
平成25年度	8名	147枚
平成26年度	8名	171枚
平成27年度	2名	18枚
平成28年度	12名	132枚
平成29年度	12名	315枚
平成30年度	17名	309枚
令和元年	20名	573枚
令和2年	16名	404枚
令和3年	30名	1447枚
令和4年	32名	2046枚
令和5年	21名	1345枚
令和6年	23名	1704枚

ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”

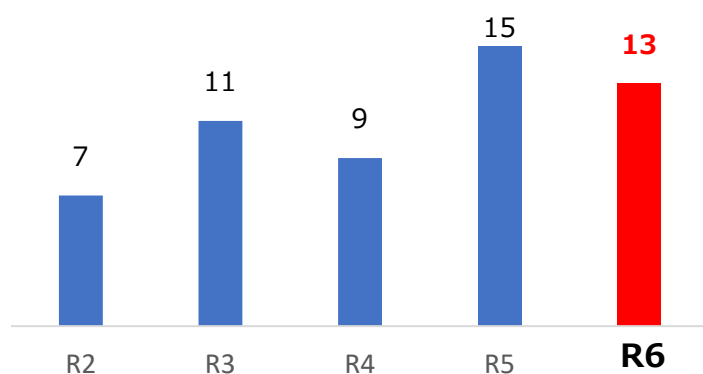
相談内容の傾向

ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”では、仕事とライフイベントの両立に関する相談から、職場の人間関係に関する悩みまで、幅広い内容の相談を受け付けています。誰もが安心して働き続けられる環境づくりを支える窓口として、日常的な不安や疑問にも丁寧に対応しています。

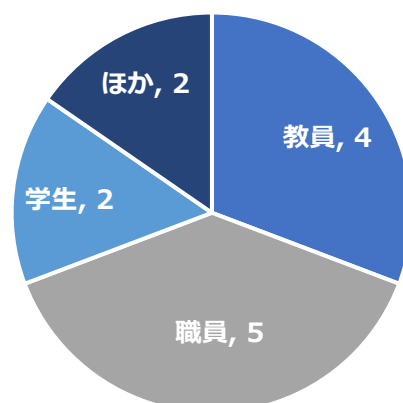
令和6年度は、計13件の相談・問い合わせが“あう”に寄せられました。内容としては、育休の取得手続きや、学生の妊娠・出産に対する支援に関する相談が多く、特に「育児」に関する相談が目立ちました。また、ベビーシッター割引券の利用方法や、学内の育児ルームの活用など、育児と研究・業務の両立を支援する制度に関する問い合わせも複数寄せられました。

育児や介護などのライフイベントと、研究・業務との両立に関する困難さは、個々の状況によって大きく異なります。そのため、“あう”では、制度の紹介だけでなく、個別の事情に応じた柔軟な対応を心がけています。「ちょっと気になる」「誰に聞けばいいかわからない」といった段階でも、気軽に相談できる窓口として、“あう”を活用していただけるよう、今後も周知と支援体制の充実に努めてまいります。

過去5年間の相談件数の推移



令和6年度の利用者内訳



LGBTQ+相談室

相談内容の傾向

令和6年度の相談者は、学群生が最も多く、内訳は学群生11名、大学院生3名、その他の学生3名でした。また、留学生からの相談も1件寄せられました。

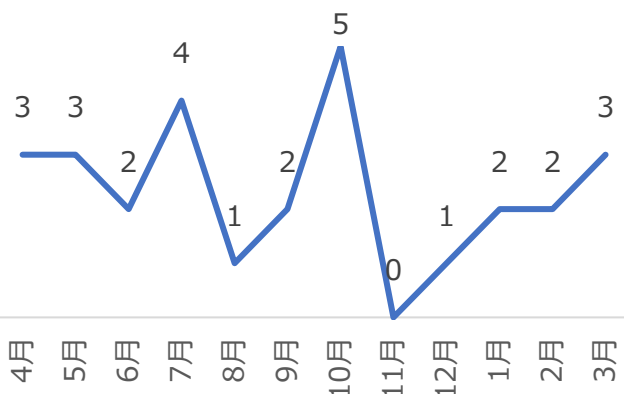
相談内容については、セクシュアリティに関するものが最も多く、自身の性自認や性的指向に関する悩みが中心でした。加えて、学修・授業に関する相談も多く、セクシュアリティの悩みと関連して履修に困難を感じているケースも見受けられました。人間関係に関する相談では、特に家族との関係に悩む継続的な相談が寄せられました。

相談件数は、一昨年度が15名30件、昨年度が9名15件、今年度は17名28件となっております。また、学外からの問い合わせは17件（大学13件、その他4件）寄せられました。内容の多くは、支援体制の構築に関する相談や講演依頼であり、本学の取り組みが他大学の参考となっている状況がうかがえます。件数は昨年度の27件からは減少しましたが、引き続き高い水準で推移しています。

相談内容（複数回答）



相談件数（延べ）



学外からの問い合わせがあった機関



ヒューマンエンパワーメント推進局 相談窓口パンフレット

教職員対象

キャリア相談(職員)

キャリア支援チーム

教職員のキャリア相談をお受けしています。
個別相談を通じて自分自身を見つめなおしたり今後のキャリア形成のサポートをいたします。

相談内容

- キャリア全般について

1回最大45分の個別相談です

予約先

以下のアドレス宛に、件名を「キャリアに関する相談」としてご連絡ください。
career@un.tsukuba.ac.jp

実施方法 【午前】オンライン
【午後】対面
相談日程 月曜日～金曜日
※年末年始・お盆休み・祝日除く
●公式X ●公式HP

教職員対象

職員の就業上の合理的配慮に関する相談

アクセシビリティ支援チーム

障害のある職員または監督者(組織の長)からの就業上の合理的配慮に関する相談をお受けしています。合理的配慮の申請は原則として監督者に行うこととなりますが、専門的見地からの意見を求める場合など障害のある職員や監督者からの相談に応じます。

相談内容

- 就業に係る合理的配慮に関し専門的見地から助言等が欲しい方
- 合理的配慮の内容に係る調整を行いたい監督者(組織の長)の方
- 不当な差別的取扱いに係る相談をしたい方

1回最大60分の個別相談です

予約先

以下のアドレス宛にご連絡ください。
bhe-shokuin-ra@un.tsukuba.ac.jp

相談日程 月曜日～金曜日
8:30～12:15 / 13:15～17:15
●公式X ●公式HP

Bureau of Human Empowerment 相談窓口のご案内

就職に限らず進路全般について相談したい！

自分の性別に合った生活を送りたい！

ライフイベントと仕事をどう両立させる？

障害のある学生の修学について知りたい！

自分の得意なことや苦手なことを知りたい！

本部棟南駐車場を利用される場合は、出入り口にバーが設置されていますので、守衛所にて臨時駐車カードをお受け取りください。

駐車場から「10棟」へ向かう途中で立体交差が現れます。この立体交差に至る階段を上り右に向かうと、スチューデントプラザ(桃色の建物)が右手に現れます。

Access

家城駅つくば市天王台1-1 スチューデントプラザ2F

BHE 筑波大学 ヒューマンエンパワーメント推進局

ヒューマンエンパワーメント推進局ではみなさんのお悩みを気軽に話せる場として各窓口を設置しております。

お困りごとやご不安なことがあればお気軽にご相談ください。

みなさんがほっとできる場となりますように。

カウンセリング利用の事実および相談内容に関しては守秘義務を厳守します。

学生対象

キャリア相談(学生)

キャリア支援チーム

授業、ワークショップ、個別相談などを通して、すべての学生・家族・教職員が視野を広げ、自分自身について考えながら、就職だけでなく進学を含めたキャリア全般について具体的な準備ができるようサポートしています。気軽にどうぞください。

相談内容

- 就職先の探し方を相談したい方
- 自己分析・自己PRを相談したい方
- 公務員・教員試験について相談したい方
- 日本での就職について相談したい留学生の方
- 企業就職を目指す博士課程学生、ポスドクの方

1回最大45分の個別相談です

予約先

以下のアドレス宛にご連絡ください。
bhe-career-student@un.tsukuba.ac.jp

実施方法 【午前】オンライン
【午後】対面
相談日程 月曜日～金曜日
※年末年始・お盆休み・祝日除く
●公式X ●公式HP

学生・教職員対象

障害学生支援の相談

アクセシビリティ支援チーム

障害のある学生に対する修学上の相談をお受けしています。障害のある学生だけでなく、学内の教職員の方々も、障害学生支援に関してご質問やご相談がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

障害の診断がない方も、「こんなこと相談してよいのかな」と悩んでいる方も、ぜひお気軽にご相談ください。

相談内容

- 障害を理由とした合理的配慮や支援を必要としている方
- 自己理解を深めたい方・自分を知りたい方
- 自分の特性に応じた支援ツールを使いたい方
- 課題やレポートの管理や進捗管理のサポートが必要な方

1回最大60分の個別相談です

予約先

以下のアドレス宛にご連絡ください。
shougai-shien@un.tsukuba.ac.jp

相談日程 月曜日～金曜日
8:30～12:15 / 13:15～17:15
●公式X ●公式HP

LGBTQ+相談

ジェンダー支援チーム

ジェンダー・セクシュアリティに関する様々な課題について相談を受け付けています。ご自身のことだけでなく、ご家族やご友人のことでも構いません。

「こんなことを相談してもよいのかな…」なんて思っても、何

か気になることがあればお気軽にお話ししてください。専門の相談員がお伺いいたします。

お困りごとやお悩みがあればそれぞれの窓口でお気軽にご相談ください。

相談内容

- 氏名や性別情報の取扱いについて知りたい方
- 健康診断や体育の授業などの学生生活について不安がある方
- ジェンダーやセクシュアリティについて専門家に相談したい方
- アウティングやハラスメントについて悩んでいる方

1回最大60分の個別相談です

予約先

HPのお問合せフォームからお申し込みください。

相談日程 月曜日～金曜日
8:30～12:15 / 13:15～17:15
●公式X ●公式HP

ワーク・ライフ・バランス相談室“あう”

ジェンダー支援チーム

ライフイベントと学業や仕事との両立について悩んでいる方

職場での人間関係で困っている方

家庭での困りごとについて話をしたい方

今後のキャリアについて不安のある方

1回最大60分の個別相談です

予約先

HPのお問合せフォームからお申し込みください。

相談日程 月曜日～金曜日
8:30～12:15 / 13:15～17:15
●公式X ●公式HP

ネットワーク紹介

シリウス

筑波大学研究者ダイバーシティ推進活動支援コミュニティ

Sirius(シリウス)

Siriusについて

筑波大学研究者ダイバーシティ推進活動支援コミュニティSirius（シリウス）は、筑波大学のダイバーシティ推進活動の風通しを良くしていくことを目的として発足したネットワークです。発足当初は女性研究者を対象としておりましたが、現在は男女や教員・職員にかかわらず、ダイバーシティ活動に協力いただける方々が約 120 名登録しております。

また下記にあるメーリングリストに登録すると、メーリングリストを通じ、ヒューマンエンパワーメント推進局（以下、BHE）からの情報を受け取るだけでなく、メンバーからの情報発信も可能となっております。

登録申請方法

申請方法は、簡単！diversity@un.tsukuba.ac.jp へ、①お名前②所属③登録メールアドレスをお送りください。（グループからの退会は各自いつでも可能です。）

登録いただくと、[sirius-diversity-tsukuba@googlegroups.com]より、登録完了のメールが届きます。

送られてくる情報（例）

- BHEで行っている支援事業等に関して
 - ・育児・介護等との両立のための研究補助・復帰支援事業（年2回）
 - ・管理運営業務を行っている女性・外国人等への業務補助関連経費支援事業（年1回）
 - ・ベビーシッター割引券に関して（年度初め）
- 本学が主催するダイバーシティ関連シンポジウム、セミナー、カフェの情報
- 他機関で行われるダイバーシティ関連イベントの情報

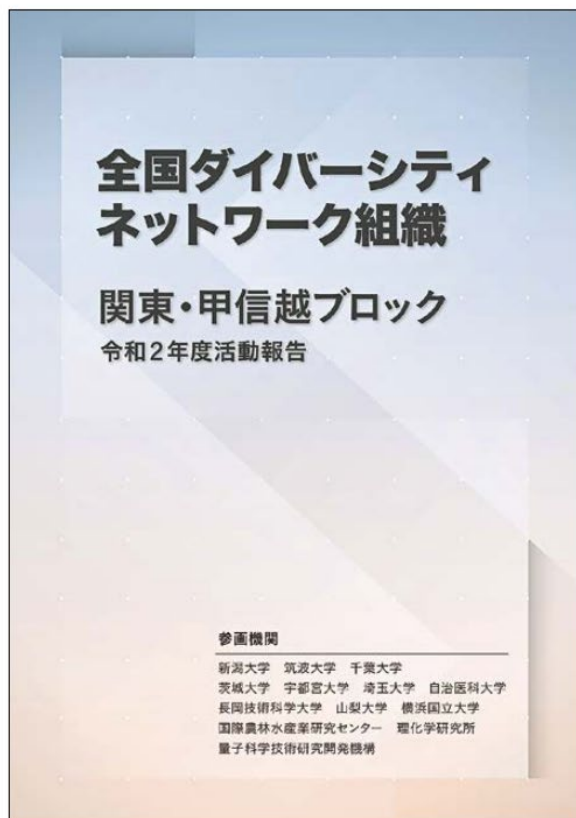
など

問合せ

筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局（ジェンダー支援チーム）

TEL：029-853-8504 MAIL: diversity@un.tsukuba.ac.jp

全国ダイバーシティネットワーク



※令和2年度作成 関東・甲信越ブロック活動報告書

全国ダイバーシティネットワーク（OPENeD）は、男女共同参画社会や多様な個性・能力が尊重されるインクルーシブな社会の実現のために、大学や研究機関、企業等における女性研究者の育成や研究環境・研究力向上を目指す諸機関をつなぎ、国内外の取組動向や参考事例（グッドプラクティス）を収集・公開し、全国的な普及・展開を図っています。OPENeDは、国立大学法人大阪大学を幹事機関として、国立大学法人東京農工大学及び協働機関である日本アイ・ビー・エム株式会社を中心となり、文部科学省と連携して活動しています。

また、全国8つの地域ブロックに分かれて活動をしており、筑波大学は、関東・甲信越ブロック（東京地区を除く）に属しています。新潟大学と千葉大学と共に、とりまとめ幹事大学のひとつとして活動をしております。

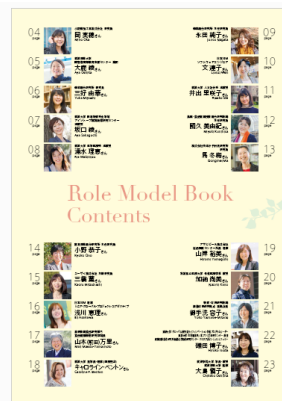
大学や研究機関等、業種や規模に依らず多くの関東・甲信越の機関がこの全国ネットワークを介して、女性研究者を取り巻く研究環境の整備や、研究力向上に向けた取組等の情報にアクセス、発信できることを目指しております。

そして、女性研究者支援に限らず、多様な属性を有する誰もが個性と能力を発揮できる研究環境の実現に向けて、広くダイバーシティ推進に資する情報交換を共有できるよう、ブロック会議やセミナーを行っております。今後も、幅広い分野の機関に参画いただけるよう、引き続き活動していきます。

ワークライフバランス支援（下敷型）

[illegible][illegible][illegible][illegible]

ロールモデル集



SOGIハラ啓発ポスター



筑波大学
University of Tsukuba

ひとりひとりの ソジ “SOGI”を大切に

「SOGI」とは、性的指向 (Sexual Orientation :

どんな性を好きになるか/ならないか等) と

性自認 (Gender Identity :

どんな性と自分で思うか/思わないか等) の略称です。

「ソジ」または「ソギ」と読むのが一般的です。

これまで性的マイノリティーを表す「LGBT」という

呼称が広く認知されていますが、

SOGIはLGBTも含めた全ての人の

性的指向と性自認という属性を指し示しています。

筑波大学は、SOGIハラを許しません

性的指向・性自認に関する侮蔑的・中傷的な言動を行うことやアウティング (他人の秘密を暴露すること) によって、

当事者が不快な思いをしたり不利益を被ったりすることはハラスメントであり、「SOGIハラ」と呼ばれ、人権侵害にあたります。

2019年に成立した「ババハラ防止法」でも、SOGIハラ防止が義務付けられています。



国立大学法人 筑波大学
ヒューマンエンバロメント推進局 (ジェンダー支援チーム)
〒305-8577 茨城県つくば市上谷1-1-1 TEL : 029-853-8504 FAX : 029-853-8505 URL : <https://diversity.tsukuba.ac.jp/> E-mail : diversity@un.tsukuba.ac.jp



男性リーダーの会

する学生及び教職員への包括的な支援を目的とした「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キヤリアセクター」に引き継がれ、さらなる女性の活躍を後押しするべく、現在も取組を加速させています。

■ 本学の施策に関する詳細

・ダイバーシティ・アクセシビリティ・キヤリアセクター ダイバーシティ部門 HP
・女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

※筑波大学は、平成 28 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受け、一層の女性活躍推進に取り組んでいきます。

■ 本件問い合わせ先

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キヤリアセクター ダイバーシティ部門
TEL: 029-853-8504 E-mail: diversity@un.tsukuba.ac.jp

平成 29 年 3 月 1 日

筑波大学ニュース&トピックス

永田恭介学長が「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しました

国立大学法人筑波大学学長の永田恭介は、内閣府が支援する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言に賛同しましたので、お知らせいたします。

本学学長の永田恭介は、この「行動宣言」に賛同し、筑波大学の学生及び教職員を含めた全ての女性の活躍のさらなる推進を通じて、あらゆる面で「開かれた大学」という建学の理念のもと、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を目指した教育研究を充実・強化していくことを、改めて表明します。

■ 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言について

平成 26 年 3 月 28 日に首相官邸で開催された「輝く女性応援会議」を契機に、輝く女性・輝くこうとする女性たちを応援する各界のリーダーたちによるムーブメントが広がっています。

このような中、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業の男性リーダーによる「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言が取りまとめられました。

※「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」行動宣言ホームページ
http://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders.html

■ 国立大学法人筑波大学の女性活躍推進施策について

筑波大学では、平成 9 年に女性研究者の有志による「筑波大学女性教職懇話会（仮称）」が発足し、学内保育所や男女共同参画推進室の設置、育児・介護支援、各種相談体制の確立等を進めるとともに、平成 20 年に「筑波大学男女共同参画の推進に係る基本理念・基本方針」、平成 24 年には「ダイバーシティ基本理念・基本方針」を策定する等、これまで一貫して女性活躍のための環境整備・意識啓発等の支援に取り組んできました。平成 28 年、これらの取組は多様化



オフィシャルHP

<https://diversity.tsukuba.ac.jp/>



X

@UTsukuba_gst